

第2期行財政経営計画



平成18年4月に第5次鈴鹿市総合計画「みんなで築く鈴鹿夢プラン」がスタートして3年が経過しようとしています。その中の、第1期行財政経営計画は、平成21年3月までの3年間を計画期間としており、終了の時期を迎えました。

鈴鹿市の将来都市像である「市民一人ひとりが夢や生きがいをもって安心して暮らせるまち すずか」の実現に向けて、取り組みを進めてきました。この3年間の成果や課題を踏まえて、平成21年4月から平成24年3月までの3年間を計画期間とする第2期行財政経営計画を策定しました。

昨年発生した世界的な金融不安の中、輸出関連企業などの業績の急激な悪化、それに伴う雇用不安の発生など、経済状況の先行きは不透明なものとなっており、本市を取り巻く経済状況も大変厳しい状況となっていますが、将来都市像の実現に向けて、今後も着実に行政を運営してまいります。

なお、この計画の策定にあたって、貴重なご意見、ご提言をいただきました市民の皆さまをはじめ、熱心にご審議をいただきました市議会、総合計画審議会など関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

平成21年3月

鈴鹿市長

川岸光男

体 系 図

- 政策 1 「生きる力」を生涯にわたり育むまちをつくります
 - 施策 1 生涯学習の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
 - 施策 2 学びの場の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
 - 施策 3 子どもを育てやすい環境づくり・・・・・・・・ P 7
 - 施策 4 子どもの教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・ P 11
 - 施策 5 生涯スポーツの推進・・・・・・・・・・・・・・・・ P 20
 - 施策 6 みんなでまもり、育てる青少年の健全育成・・ P 23
- 政策 2 魅力ある「すずか文化」を受け継ぎ、生み出していきます
 - 施策 7 伝統文化の保護・保存・継承・活用・・・・・・・・ P 26
 - 施策 8 文化活動の促進・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 28
- 政策 3 環境への負荷の少ない循環型社会を進めます
 - 施策 9 ごみ減量活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・ P 32
- 政策 4 自然環境を保全するとともに、快適な生活環境を維持します
 - 施策 10 自然の保護と緑のまちづくり・・・・・・・・・・ P 36
 - 施策 11 適正な水環境の保全・・・・・・・・・・・・・・・・ P 41
 - 施策 12 身近な生活環境を守る活動の推進・・・・・・・・ P 45
- 政策 5 みんなで支えあう福祉のまちをつくります
 - 施策 13 福祉サービスの充実・・・・・・・・・・・・・・・・ P 49
 - 施策 14 労働環境の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 56
- 政策 6 いつも健康で暮らせるまちにします
 - 施策 15 健康づくりの推進・・・・・・・・・・・・・・・・ P 59
 - 施策 16 医療体制・制度の充実・・・・・・・・・・・・・ P 62

● 政策 7	一人ひとりの人権が尊重され、誰もが参画できる社会の実現をめざします	
— 施策 17	平等で平和な社会の実現	P 6 6
— 施策 18	共生社会の実現	P 7 0
— 施策 19	男女共同参画社会の実現	P 7 2
● 政策 8	人・物・情報が活発に行き交うまちをつくります	
— 施策 20	人・物がスムーズに行き交う交通網の充実	P 7 5
— 施策 21	経済活動が活発化する市街地の創造	P 7 9
— 施策 22	情報通信インフラの活用と次世代への対応	P 8 1
● 政策 9	地域の個性と暮らしの利便性を高めます	
— 施策 23	生活の快適性・利便性の向上	P 8 3
— 施策 24	景観に配慮しつつ個性を活かした計画的なまちづくり	P 8 7
● 政策 10	地域経済を支える豊かな産業を活かします	
— 施策 25	蓄積された知識と技術の活用による競争力の向上	P 9 0
— 施策 26	持続的で安定した経営基盤づくり	P 9 3
● 政策 11	新たな活力を生み出す産業を振興します	
— 施策 27	新ビジネスの創造と産業の振興	P 1 0 2
— 施策 28	豊かな自然と観光資源の活用	P 1 0 8
● 政策 12	災害に強いまちづくりを推進します	
— 施策 29	防災対策の推進	P 1 1 1
— 施策 30	浸水・治水対策の推進	P 1 1 4
— 施策 31	地震災害対策の推進	P 1 1 8

●政策 1 3	安全なまちをめざします	
— 施策 3 2	消防力の強化	P 1 2 1
— 施策 3 3	交通安全対策の推進	P 1 2 4
— 施策 3 4	建築物の安全性確保	P 1 2 9
●政策 1 4	安心できる市民生活を確保します	
— 施策 3 5	防火・防犯対策の推進	P 1 3 1
— 施策 3 6	救急・救命対策の推進	P 1 3 4
— 施策 3 7	上水道の安定供給	P 1 3 7
— 施策 3 8	相談機能の拡充	P 1 4 3
●主要テーマ 1	市民みんなで取り組むまちづくりをめざします	
— 施策 3 9	市民参加が活発なまちづくり	P 1 4 6
— 施策 4 0	情報共有の推進	P 1 5 0
●主要テーマ 2	時代の変化に対応した行政経営をめざします	
— 施策 4 1	効果的・効率的な行政運営	P 1 5 3
— 施策 4 2	健全な財政運営	P 1 6 2
— 施策 4 3	適正な事務運営	P 1 6 5

第 1 部

第 2 期行財政経営計画



行財政経営計画の用語解説

◆ビジョン

各施策を実行することによって、達成したい、めざす地域のすがたを記載しています。

◆ミッション

ビジョンを達成するために、各施策において実行する行政の使命や役割を記載しています。

◆重点戦略

各施策において、「鈴鹿市戦略計画書」に位置づけられた戦略が該当する場合に、その戦略名を記載しています。

◆鈴鹿市戦略計画書

平成19年度に策定し、平成21年度（平成21年4月）から平成23年度（平成24年3月）までを計画期間としています。

市のめざすべき将来都市像の実現に向け、政策を推進する12部局（企画財務部、総務部、生活安全部、文化振興部、環境部、保健福祉部、産業振興部、土木部、都市整備部、水道局、教育委員会、消防本部）が所管する分野のめざすべき地域社会の姿や目標を実現するために実施する活動について、社会経済動向を先読みした施策展開や経営資源の投入方針を明らかにしたものです。

◆成果指標

各単位施策において、活動の結果、目的に照らしてどのような成果があったかを数値で示しています。

目標の実現に向けて、具体的な目標となる項目を定め、そのめざすべき水準について、定量的に分かりやすく示すとともに、単位施策の成果を把握していくための指標です。

◆資源投入の方向性

各単位施策において、人や財源を今後3年間どう投入していくのかを示しています。

「①拡大します、②現状を維持します、③縮小します」の3つから選択して記入しています。

第1章 人と文化を育むまちづくり

§ 政策－1

「生きる力」を生涯にわたり育むまちをつくります

● 施策－1：生涯学習の推進

—担当部：文化振興部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

地域全体で市民相互の学び合いが進み、多くの市民が公民館等、身近な場所で学習活動に取り組み、学んだことを地域社会づくりに活かしています。

地域・保護者・学校が一体となった青少年育成活動により、地域における子どもの居場所づくりが進み、青少年が健全に育っています。

【行政の使命（ミッション）】

生涯学習の機会提供と環境整備による学習活動の支援を行うとともに、市民同士の学び合いや市民が学んだことを地域社会に還元できる環境づくりを進めます。

地域・保護者・学校の連携を深め、青少年育成活動を支援し、子どもの居場所の確保と充実を図ります。

【重点戦略】

- ◆ 地域における学習活動の推進（文化振興部）
- ◆ 地域・保護者・学校の連携による青少年育成の支援（文化振興部）

【具体的な取り組み】

- ◇ 単位施策－１：地域・保護者・学校の連携による青少年育成の支援
—担当課：生涯学習課—

《概要》

青少年育成事業への支援を行います。また、市民の参画をめざした事業を実施します。

目 的		青少年育成事業が活性化している。		
成果 指標	指標名	青少年育成事業への 年間参加者延べ数	目標値 (H23年度)	80,000人 以上
	指標設定 根拠・背景	青少年育成事業への参加者数が増加することは、青少年育成事業が活性化したことを表す。 (平成27年度目標値：85,000人)	現状値 (H19年度)	71,964人
資源投入 の方向性			拡大します	

◇ 単位施策－２：地域における学習活動の推進

—担当課：生涯学習課—

《概要》

生涯学習推進のために、情報提供を充実します。

また、公民館活動を支援し、公民館等を安全かつ快適に利用できるように整備します。

目的		市民の学習意欲が向上し、心豊かな生活を送っている。		
成果 指標	指標名	学習活動への年間参加者延べ数	目標値 (H23年度)	520,000人以上
	指標設定 根拠・背景	学習活動への参加者数が増加することは、学びに対する意欲の向上を示し、それが多くなることにより、市民が心豊かな生活を送ることにつながる。(平成27年度目標値：520,000人以上)		現状値 (H19年度) 497,996人
資源投入 の方向性			現状を維持します	

●施策－２：学びの場の充実

—担当部：企画財務部，文化振興部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

多くの市民が図書館等，身近な場所で学習活動に取り組んでいます。また，高等教育機関が市や地域と連携し，地域社会づくりを行っています。

【行政の使命（ミッション）】

市民活動を支援できる図書館への機能充実を図りながら，地域で利用しやすい図書館サービスを提供します。

また，学官連携協議会議^{※1}を通じ，高等教育機関との連携を深めます。

【重点戦略】

◆地域における学習活動の推進（文化振興部）

※1 「学官連携協議会議」・・・鈴鹿市と市内各高等教育機関（鈴鹿医療科学大学，鈴鹿国際大学，鈴鹿短期大学，鈴鹿工業高等専門学校）が課題の共有や意見交換を行う場として，各学校ともに年1回ずつ開催している会議

【具体的な取り組み】

◇ 単位施策－３：図書館サービスの充実

—担当課：図書館—

《概要》

市全域で図書館の利用ができるよう地域サービス事業を整備して、図書館サービスを拡充します。

目的		市民が、多様で充実した図書館サービスを市全域で受けている。		
成果指標	指標名	貸出冊数	目標値 (H23年度)	780,000冊 以上
	指標設定 根拠・背景	貸出冊数が増加することは、多くの市民が図書館サービスを受けている状態であり、図書館サービスの充実につながる。(平成27年度目標値：780,000冊以上)	現状値 (H19年度)	730,198冊
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－４：高等教育機関との連携

—担当課：企画課—

《概要》

市内の高等教育機関と市とで構成する学官連携協議会議※²を通じて、相互の課題や情報の共有を進め、連携を深めます。また、高等教育機関の充実に努めます。

目的		市内の高等教育機関が、市や市民と連携して活動し、地域の活性化と教育・文化振興が行われている。		
成果 指標	指標名	学官連携協議会議を通じて取り組みを行った事業数（年間）	目標値 (H23年度)	18事業
	指標設定 根拠・背景	連携が深まり取り組む事業数が増加することにより、地域の活性化等につながる。(平成27年度目標値：20事業)	現状値 (H19年度)	16事業
資源投入 の方向性			現状を維持します	

※² 「学官連携協議会議」・・・鈴鹿市と市内各高等教育機関（鈴鹿医療科学大学，鈴鹿国際大学，鈴鹿短期大学，鈴鹿工業高等専門学校）が課題の共有や意見交換を行う場として、各学校ともに年1回ずつ開催している会議

●施策－3：子どもを育てやすい環境づくり

—担当部：保健福祉部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

仕事と子育ての両立ができ、誰もが生み育てやすい社会環境で生活しています。

【行政の使命（ミッション）】

誰もが安心して子育てするため、保育所（園）や子育てのための地域拠点の保育環境整備を行うとともに、経済的支援や家庭児童相談を行います。

【重点戦略】

◆生み育てやすい地域社会づくり（保健福祉部）

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－５：生み育てやすい地域社会づくり**

—担当課：子育て支援課—

《概要》

市内全域での子育て支援施設として、保育所等^{※3}の機能をさらに充実させます。

目的		市内全域において、子育て家庭の交流ができる拠点を活用して、子育て中の親の負担が緩和されている。		
成果指標	指標名	地域子育て支援拠点事業 ^{※4} の年間利用者延べ数	目標値 (H23年度)	45,000人以上
	指標設定根拠・背景	利用者が増加することは、より多くの子育て家庭に支援サービスが提供されることを示し、さらに、子育て中の親の負担の緩和につながる。 (平成27年度目標値：45,000人以上)	現状値 (H19年度)	37,947人
資源投入の方向性			拡大します	

※3 「保育所等」・・・公立保育所、私立保育所、つどいの広場、子育て支援センター「りんりん」、勤労青少年ホーム「はぐはぐ」

※4 「地域子育て支援拠点事業」・・・子育て親子の交流を促進する子育て支援拠点の設置を推進し、子どもの健やかな育ちを促進する事業

◇ 単位施策－6：子育て家庭への支援

—担当課：子育て支援課—

《概要》

子育て家庭の経済的・精神的な支援と、働きやすい環境整備を行います。

目的		子育て家庭が延長保育を受けることにより、仕事と子育ての両立が図られている。		
成果指標	指標名	延長保育実施保育園数	目標値 (H23年度)	30園
	指標設定 根拠・背景	実施施設数が増加すれば、利用者数も増加し、仕事と子育ての両立が図られることにつながる。(平成27年度目標値：30園)		現状値 (H19年度) 28園
資源投入の方向性			拡大します	

◇ 単位施策－7：保育環境の充実

—担当課：子育て支援課—

《概要》

入所児童が快適に過ごせる安全安心な保育施設を整備します。

目的		適正規模の定員を確保するため、老朽化しつつある公立保育所の計画的な施設整備が行われている。		
成果 指標	指標名	建て替え済みの公立保育所数	目標値 (H23年度)	1園
	指標設定 根拠・背景	建て替えを行うことによって、安心・安全で快適に過ごせる保育施設を整備する。(平成27年度目標値：3園)	現状値 (H19年度)	未実施
資源投入 の方向性			拡大します	

●施策－４：子どもの教育の充実

—担当部：教育委員会事務局—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

「学び」のネットワークが充実し、幼児から中学生まで、どの子も安心して、確かな学力を身に付けるための基礎・基本的な学びが保障された学校になっています。

【行政の使命（ミッション）】

児童生徒一人ひとりの学力を保障するため、個へのきめ細やかな指導を可能にする少人数教育非常勤講師の配置や少人数教室の拡充等、教育環境を充実するとともに、鈴鹿市独自の課題である外国人児童生徒の適応指導と多文化共生を推進します。

また、公立幼稚園については、保護者のニーズや全市的な就学前教育の観点から見直しを行い、再編整備を進めます。

【重点戦略】

- ◆学力保障（教育委員会事務局）
- ◆公立幼稚園の再編整備（教育委員会事務局）
- ◆日本語指導支援システムの構築（教育委員会事務局）

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－８：子どもの教育環境の充実**

—担当課：教育総務課—

《概要》

子どもたちが安心して学ぶための環境整備を行います。

目 的		子どもたちが、良好な教育環境で教育を受けている。		
成果 指標	指標名	実施計画掲載事業の 進捗率	目標値 (H23年度)	100%
	指標設定 根拠・背景	実施計画掲載事業が計画通り実施されることは、教育環境の改善が図られることにつながる。 (平成27年度目標値：100%)	現状値 (H19年度)	100% (平成18～20年度を計画期間とした実施計画での進捗率)
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－9：就学前教育の充実

—担当課：教育総務課，学校教育課—

《概要》

公立幼稚園における教育環境と今後の幼稚園の効率化について検討を進めます。

また，私立幼稚園に各種補助金を交付します。

目的		公立幼稚園で効率的で適正な運営がなされ，幼稚園児が充実した就学前教育を受けている。		
成果指標	指標名	効率化された公立幼稚園数	目標値 (H23年度)	1園以上
	指標設定 根拠・背景	効率化された公立幼稚園数が増えることは，効率的で適正な運営がなされている幼稚園の増加を示し，幼稚園児が充実した就学前教育を受けることにつながる。(平成27年度目標値：12園)	現状値 (H19年度)	未実施
資源投入の方向性			縮小します	

◇ 単位施策－１０：学校教育の充実

—担当課：学校教育課—

《概要》

児童生徒の学力保障や心身の健康増進，保護者への経済的な支援を通し，学校教育の充実を図ります。

目的		児童生徒が健康で明るく学びながら，生きる力の基礎を身に付けている。		
成果指標	指標名	少人数学級編成の実施率	目標値 (H23年度)	93.5% 以上
	指標設定 根拠・背景	少人数学級編成の割合が増加することは，きめ細かな学級運営や教科指導がなされていることを示し，児童生徒の学力保障や心身の健康増進につながる。(平成27年度目標値：97%)	現状値 (H19年度)	91.7%
資源投入の方向性			拡大します	

◇ 単位施策－１１：学校教育を支える地域社会づくり

—担当課：指導課—

《概要》

子どもの健やかな成長を育み、学校教育を支える地域※⁵社会づくりを進めます。

目 的		地域の方々の学習支援により，子どもたちが学ぶ意欲を向上させ，夢を育てている。		
成果 指標	指標名	市内小・中学校の学習支援ボランティア登録者数	目標値 (H23年度)	700人 以上
	指標設定 根拠・背景	学習を支援する地域の登録者が増えることで，きめ細かな指導ができ，子どもたちが学ぶ意欲を向上させ，夢を育むことにつながる。(平成27年度目標値：1,100人)	現状値 (H19年度)	364人
資源投入 の方向性			現状を維持します	

※5 「地域」・・・原則各校区。学校，地域の状況により校区を越える場合もある。

◇ 単位施策－１２：確かな学力づくり

—担当課：指導課—

《概要》

児童生徒一人ひとりの学力を保障するため、きめ細かな指導を行います。

目的		子どもたちの学力が全国標準に到達している。		
成果 指標	指標名	学力到達度調査※ ⁶ の結果	目標値 (H23年度)	100ポイント以上
	指標設定 根拠・背景	全国標準である100ポイントに近づくことは、児童生徒の学力が保障されていることにつながる。(平成27年度目標値：101ポイント)	現状値 (H19年度)	97.8ポイント
資源投入 の方向性			現状を維持します	

※6 「学力到達度調査」・・・子どもたちの学力状況を客観的に把握し、今後の指導方法の改善等に生かすために、小学5年生で国語・算数、中学2年生で国語・数学・英語の学力到達度を測る調査

◇ 単位施策－１３：人権教育の推進

—担当課：人権教育課—

《概要》

子どもたちの豊かな人権感覚を育み、共に生きていくことの素晴らしさを実感できる教育活動に取り組みます。

目的		子どもたちの人権感覚が高まり、一人ひとりの人権が尊重される社会の実現に寄与する意欲が高まっている。		
成果指標	指標名	外国人教育指導助手、外国人児童生徒支援員等の人数	目標値 (H23年度)	13人
	指標設定根拠・背景	ちがいを認め合い、互いの人権を尊重し、共に生きていく社会の実現をめざす多文化共生教育は、人権教育の重要な柱である。外国人児童生徒の教育にかかわる担当者が増加することにより多文化共生教育が推進され、一人ひとりの人権が尊重される社会の実現に寄与する。(平成27年度目標値：17人)	現状値 (H19年度)	10人
資源投入の方向性			拡大します	

◇ 単位施策－１４：学校教育の支援・研究

—担当課：教育研究所—

《概要》

教育現場における今日的な課題に対応した研修講座の開設や，指導資料の作成等，教職員の資質向上に向けた支援・研究を行います。

目 的		教職員が今日的な課題に対応でき，適切に教育が行われている。		
成果 指標	指標名	研修講座受講者数	目標値 (H23年度)	2,000人 以上
	指標設定 根拠・背景	研修講座受講者数の増加により，教職員の資質が向上し，教職員が今日的な課題に対応でき，適切な教育が行われることにつながる。(平成27年度目標値：2,200人)	現状値 (H19年度)	1,792人
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－１５：教育相談の充実

—担当課：教育研究所—

《概要》

不登校・いじめ・集団不適応・問題行動・就学問題等，様々な課題の解決に向けて，教育相談体制を充実します。

目的		幼児・児童・生徒とその保護者及び学校関係者が課題の解決に向けて，いつでも気軽に相談できる体制が整っている。		
成果指標	指標名	不登校児童生徒の割合	目標値 (H23年度)	1.10% 以下
	指標設定 根拠・背景	不登校の児童生徒が減少することは，いつでも気軽に教育相談ができる体制が整ってきていることを表す。(平成27年度目標値：1.00%)	現状値 (H19年度)	1.19%
資源投入の方向性			現状を維持します	

●施策－５：生涯スポーツの推進

—担当部：文化振興部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

ハイレベルなスポーツ大会の開催や情報交換が行われています。

各地域において、健康づくりや相互交流の観点から、ソフトバレーボール、グラウンドゴルフ、ファミリーバドミントン等のニュースポーツ等が普及し、スポーツによる新たなコミュニティが形成されています。

【行政の使命（ミッション）】

県や各競技団体、企業等が開催するスポーツイベントへの支援を進めます。

小学校区を基軸とした生活圏の中で、生涯スポーツ振興の核となる体育指導委員を中心に、誰もが気軽に参加できるニュースポーツ教室等の事業を展開します。

体育協会との連携により、スポーツ医科学を取り入れた講習会等を進めます。

【重点戦略】

◆市民参加型スポーツの推進（文化振興部）

【具体的な取り組み】

◇ 単位施策－１６：市民参加型スポーツの推進

—担当課：スポーツ課—

《概要》

「市民一人ひとりのスポーツ」をめざし、各々の目的を持って楽しめるスポーツ行事や教室等を企画、開催します。

目 的		市民がスポーツ活動に親しみながら、健康的な生活を送っている。		
成果 指標	指標名	市主催の各種スポーツ行事・教室等への年間参加者数	目標値 (H23年度)	25,000人
	指標設定 根拠・背景	市主催の各種スポーツ行事・教室等への参加者が増加することは、市民がスポーツ活動に親しみながら健康的な生活を送っていくことにつながる。(平成27年度目標値：26,000人)	現状値 (H19年度)	24,013人
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－１７：快適に利用できる運動施設の整備・運営

—担当課：スポーツ課—

《概要》

運動施設が快適に利用できるよう整備・充実を図ります。

目的		運動施設が整備・充実され、多くの市民に利用されている。		
成果 指標	指標名	運動施設及び学校体育施設の年間利用者数	目標値 (H23年度)	900,000人
	指標設定 根拠・背景	年間利用者数の増加は、運動施設が整備・充実され、多くの市民に利用されていることを表す。 (平成27年度目標値：900,000人以上)	現状値 (H19年度)	880,915人
資源投入 の方向性		 現状を維持します		

●施策－6：みんなでまもり，育てる青少年の健全育成

—担当部：教育委員会事務局—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

「安全安心」のネットワークが充実し，子どもたちが安心して登下校したり，地域（小学校区）で過ごしたりできる安全で安心な地域環境（小学校区）が整備されているとともに，子どもたちの基本的生活習慣の改善に向けた機運が地域（小学校区）に高まっています。

【行政の使命（ミッション）】

市民パトロール隊や学校安全安心パトロール隊の相互連携を深め，地域（小学校区）における安全安心な環境づくりを整備するとともに，パトロール隊の研修会を開催し，隊員の資質向上とリーダー育成を図ります。

また，子どもたちの基本的生活習慣の向上をめざして，「早寝早起き朝ごはん運動」の充実・拡大を図ります。

【重点戦略】

- ◆「安全安心」のネットワークの充実と基本的生活習慣の向上（教育委員会事務局）

【具体的な取り組み】

◇ 単位施策－１８：子どもの安全安心ネットワークの充実

—担当課：青少年課—

《概要》

学校・保護者・地域（小学校区）が連携した安全安心パトロール隊との連携強化, 子どもの危険予知・回避能力の育成等に取り組み, 子どもの安全安心確保に向けた活動を支援します。

目 的		子どもたちが安全で安心な地域（小学校区）で育っている。		
成果 指標	指標名	パトロール隊活動への参加人数	目標値 (H23年度)	4,000人 以上
	指標設定 根拠・背景	一人でも多くの大人が見守り活動をすることが、子どもの安全安心ネットワークの充実につながる。（平成27年度目標値：5,200人）	現状値 (H19年度)	2,806人
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－１９：青少年の健全育成

—担当課：青少年課—

《概要》

鈴鹿市青少年対策推進本部が中心となり、市民、関係機関等と連携し、横断的・総合的に青少年の健全育成を行います。

目的		青少年が健全育成活動に参加し、健やかに育っている。		
成果指標	指標名	各中学校区における青少年健全育成活動への参加者数	目標値 (H23年度)	5,000人以上
	指標設定 根拠・背景	活動への参加者数が増えることは、青少年健全育成への地域連携（中学校区）が進み、青少年が健やかに育っていくことにつながる。（平成27年度目標値：7,000人）	現状値 (H19年度)	3,017人
資源投入の方向性			現状を維持します	

§ 政策－ 2

魅力ある「すずか文化」を受け継ぎ、生み出していきます

●施策－ 7：伝統文化の保護・保存・継承・活用

—担当部：文化振興部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

学習の場や環境が充実していることから、誰もが伝統文化や歴史に親しむことができ、地域に対する誇りと愛着を抱いています。地域の歴史・文化や歴史的景観がまちづくりの活力ベースとなっています。

【行政の使命（ミッション）】

歴史的文化遺産の調査、研究及び保護により、考古博物館や各資料館を活用したまちづくりを行います。

また、文化財や歴史の保護・活用に向けて、市民の理解が得られるよう、貴重な文化財の環境整備等を通して、郷土意識の向上をめざします。

【重点戦略】

◆文化財を発掘・保存・活用したまちづくりの推進（文化振興部）

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－20：文化財を発掘・保存・活用したまちづくりの推進**

—担当課：文化課，考古博物館—

《概要》

文化遺産を保護・保存し，次世代に継承するとともに，市民の文化遺産に対する関心を高め，活用の機会充実を進めます。

目的		貴重な文化財が，後世に伝えられるよう保護・保存されており，市民が，郷土の歴史や文化財に親しんでいる。		
成果指標	指標名	博物館等※7 来館者数	目標値 (H23年度)	31,000人 以上
	指標設定 根拠・背景	考古博物館等への来館者が増加することは，市民の文化遺産への関心が高まり，郷土の歴史や文化財に親しんでいることを表す。(平成27年度目標値：33,000人)		現状値 (H19年度)
資源投入の方向性		 拡大します		

※7 「博物館等」・・・考古博物館，佐佐木信綱記念館，庄野宿資料館，伊勢型紙資料館，稲生民俗資料館，大黒屋光太夫記念館，前川定五郎資料室

●施策－８：文化活動の促進

—担当部：生活安全部，文化振興部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

市民が文化活動に参加することで生活の質を高めるとともに，活動を通じて，市民交流や市民参画が促進されています。

【行政の使命（ミッション）】

安全で利便性の高い公共ホールを提供し，文化振興事業団をはじめ市内の文化団体と行政が，互いの特性を生かしながら連携し，文化活動を活性化させます。

【重点戦略】

◆市民参加型文化事業の推進（文化振興部）

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－２１：市民参加型文化事業の推進**

—担当課：総務課，文化課—

《概要》

文化団体や民間事業との整合性と役割分担を図りながら文化事業を推進します。文化団体等と連携して，地域における市民文化活動の活性化のための事業を実施します。

目的		芸術文化活動を行う個人，団体が，自分の意図する表現を十分発揮している。		
成果指標	指標名	鈴鹿市，文化振興事業団及び芸術文化協会の文化事業への参加者数	目標値 (H23年度)	24,000人以上
	指標設定根拠・背景	文化事業への参加者数の増加は，芸術文化活動を行う市民や団体が自分の意図する表現を十分発揮できるようになっていくことにつながる。(平成27年度目標値：24,000人以上)	現状値 (H19年度)	21,800人
資源投入の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－２２：文化的施設の整備・運営

—担当課：文化課—

《概要》

芸術創造活動等の拠点となる，市民の安全性と利便性を備え持つ文化施設の整備を実施し，地域文化の振興とこれを支える人材育成の促進を図ります。

目的		文化施設が多くの市民に利用され，市民の地域文化に参加できる機会が増えている。		
成果指標	指標名	市民会館・文化会館・江島カルチャーセンターの年間利用者数	目標値 (H23年度)	260,000人以上
	指標設定根拠・背景	文化施設を多くの方が利用することは，地域文化に参画できる機会が増えて，活性化につながっている。(平成27年度目標値：260,000人以上)	現状値 (H19年度)	256,199人
資源投入の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－２３：異文化理解の推進

—担当課：市民対話課—

《概要》

諸外国との国際交流事業を推進します。

目的		市民が諸外国との交流を通じ、他国の文化等、相互理解を深めている。		
成果 指標	指標名	鈴鹿市が（財）鈴鹿国際交流協会を通じて実施する友好提携都市ベルフォンテン市青少年派遣団応募者数	目標値 (H23年度)	25人
	指標設定 根拠・背景	青少年の海外派遣が、海外の文化を理解し、将来の人材育成に大切かつ必要であることを、市民が認識している指標として応募者数で測る。(平成27年度目標値：25人)	現状値 (H19年度)	25人
資源投入 の方向性			現状を維持します	

第2章 環境と共生するまちづくり

§ 政策－3

環境への負荷の少ない循環型社会を進めます

●施策－9：ごみ減量活動の推進

—担当部：環境部，都市整備部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

市民が主体となって，ごみの削減・資源化率の向上に向けた積極的な取り組みがなされています。

【行政の使命（ミッション）】

4R活動^{※8}を通じて，市民とともにごみの減量化に努め，ごみの資源化を推進する社会基盤を整備するとともに，市民への啓発活動を実施することによって環境意識の向上を図ります。

【重点戦略】

- ◆不法投棄されにくい環境づくり（環境部）
- ◆リサイクルの推進と，ごみを出さないための工夫（環境部）

※8 「4R活動」・・・「物は使えるうちはできるだけ長く使う」（Reduce（リデュース）），「必要なものだけ買う」（Refuse（リフューズ）），「繰り返し大切

に使う」(Reuse (リユース)), 「再生利用する」(Recycle (リサイクル))

【具体的な取り組み】

◇ 単位施策－２４：リサイクル施策の推進と資源化の促進

—担当課：管財営繕課，廃棄物対策課，土木総務課，市街地整備課，建築指導課—

《概要》

分別収集等のリサイクル活動を推進します。

目 的		市民，事業者，行政が分別収集等の各種リサイクル施策を推進し，資源化を行っている。		
成果 指標	指標名	資源化率	目標値 (H23年度)	31.80% 以上
	指標設定 根拠・背景	資源化率が上昇することは，市民のリサイクル意識が向上し，活動が活発になっていることである。(平成27年度目標値：32.50%)		現状値 (H19年度) 25.57%
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－２５：廃棄物の適正処理による健全な環境の確保

—担当課：環境政策課，廃棄物対策課，不燃物
リサイクルセンター，清掃センター，クリー
ンセンター—

《概要》

不法投棄ごみの調査及び撤去や海岸等の清掃活動等を実施するとともに，収集された廃棄物を適正に処理できるよう施設の管理運営を行います。

目的		廃棄物が適正に処理され，不法投棄が少なくなり，きれいなまちになっている。		
成果 指標	指標名	不法投棄の苦情件数	目標値 (H23年度)	300件 以下
	指標設定 根拠・背景	不法投棄の苦情件数が減少することは，不法投棄が少なくなり，きれいなまちになっている状態である。(平成27年度目標値：280件)		現状値 (H19年度)
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－26：循環型社会の基盤整備の推進

—担当課：開発整備課—

《概要》

ごみ処理施設の建設と施設周辺の環境整備を推進します。

目的		容器包装プラスチックごみ処理施設、不燃・粗大ごみ処理施設（環境学習・啓発の場を含む）が建設され、循環型社会の形成に向けた基盤整備が進んでいる。		
成果指標	指標名	容器包装リサイクル法対象（その他のプラスチックごみ）※9の資源化率	目標値 (H23年度)	75.91% 以上
	指標設定根拠・背景	不燃物リサイクルセンターの整備によって、容器包装リサイクル法対象（その他のプラスチックごみ）の資源化率が向上することは、循環型社会が形成されていくことである。（平成27年度目標値：90.00%）	現状値 (H19年度)	未実施
資源投入の方向性			拡大します	

※9 「容器包装リサイクル法対象（その他のプラスチックごみ）」・・・プラスチック製容器包装識別マークのついたプラスチックごみ



§ 政策－４

自然環境を保全するとともに、快適な生活環境を維持します

●施策－１０：自然の保護と緑のまちづくり

—担当部：環境部，産業振興部，土木部，都市整備部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

豊かな自然を保ち，市民が快適な自然環境を享受し，緑豊かな生活を実感しています。

【行政の使命（ミッション）】

地球温暖化防止に向けた活動を進め，身近な自然の保全，緑化施策の推進，環境意識の向上を図ります。

【重点戦略】

- ◆市民一人当たりの温室効果ガス削減目標値の設定とその達成（環境部）
- ◆自然環境の保全意識の推進（環境部）
- ◆都市公園の推進（都市整備部）

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－２７：地球温暖化防止に向けた活動の推進**

—担当課：環境政策課，建築指導課—

《概要》

環境にやさしい新エネルギーの導入促進や，温室効果ガスの排出抑制の活動を推進し，地球温暖化防止活動に取り組みます。

目的		市民や事業者等が，地球温暖化問題に関する知識を高め，温室効果ガスの排出が抑制されている。		
成果指標	指標名	Suzuka-EC02プロジェクト※10登録者数	目標値 (H23年度)	500人
	指標設定 根拠・背景	Suzuka-EC02プロジェクトの登録者が増えるということは，地球温暖化対策が実行されており，温室効果ガスが削減されているということである。(平成27年度目標値：なし(平成23年度に事業終了予定))	現状値 (H19年度)	未実施
資源投入の方向性			拡大します	

※10 「Suzuka-EC02プロジェクト」・・・身近な生活の中で省エネ活動を実施していただく市民を募集し，電気・ガス等の効率的な使用を通じて，CO2削減を図っていくプロジェクト

◇ 単位施策－２８：自然環境の把握と生態系の保全

—担当課：環境政策課，農林水産課—

《概要》

動植物の生息・生育状況，種類・個体数等，自然環境の調査を行います。

目的		市民の自然環境保全の意識が高まり，生態系が保全されている。		
成果指標	指標名	自然環境調査参加者数	目標値 (H23年度)	200人以上
	指標設定 根拠・背景	自然環境調査参加者数が増加することは，市民の意識が高まり，生態系の保全につながることである。(平成27年度目標値：500人)	現状値 (H19年度)	未実施
資源投入の方向性			拡大します	

◇ 単位施策－29：自然環境体験学習の充実

—担当課：環境政策課—

《概要》

専門知識をもつ団体や有識者ととも市内の自然環境に触れられる機会をつくります。

目的		市民の自然環境の保全意識が向上している。		
成果 指標	指標名	自然観察会等への参加人数	目標値 (H23年度)	600人 以上
	指標設定 根拠・背景	自然観察会等へ参加する人数が増加することは、自然に触れる機会が増えるため自然環境の保全意識が向上していることである。(平成27年度目標値：1,000人)	現状値 (H19年度)	250人
資源投入 の方向性			拡大します	

◇ 単位施策－30：緑の保全と緑化施策の推進

—担当課：道路保全課，市街地整備課—

《概要》

緑の拠点となる公園緑地等の整備・確保を図ることにより，まちの緑化推進を図ります。

目的		緑豊かで潤いのあるまちづくりが進んでいる。		
成果 指標	指標名	緑に対する満足度	目標値 (H23年度)	68% 以上
	指標設定 根拠・背景	緑に対する満足度が増加することは，行政と市民が一体となって緑化施策を推進していることであり，緑豊かで潤いのあるまちづくりが進んでいる状態である。 (平成27年度目標値：72%以上)	現状値 (H19年度)	64%
資源投入 の方向性		 拡大します		

●施策－１１：適正な水環境の保全

—担当部：環境部，産業振興部，都市整備部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

適正で安全な水環境の下で，市民が健康で快適に暮らしています。

【行政の使命（ミッション）】

美しく健全な水環境を保全するため，下水道事業及び集落排水事業の推進により，川や海等の水質改善を図ります。

【重点戦略】

◆公共下水道事業の推進（都市整備部）

【具体的な取り組み】

◇ 単位施策－31：農業集落排水の整備推進

—担当課：集落排水課—

《概要》

農村地域に適した排水処理施設の整備を推進します。

目的		事業計画区域内の住民が農業集落排水事業 ^{※11} により、排水処理施設を使用できるようになっている。		
成果指標	指標名	農業集落排水整備率	目標値 (H23年度)	86.63%
	指標設定 根拠・背景	整備率が上昇することは、農業集落排水を使用できる住民が増加することである。(平成27年度目標値：86.63%)		現状値 (H19年度) 82.71%
資源投入の方向性			現状を維持します	

※11「農業集落排水事業」・・・台所、浴室、洗面所等家庭から排出される生活雑排水とし尿を浄化センターできれいな水にして放流することによって、農業集落の自然環境の保全と生活環境の整備を図る事業

◇ 単位施策－32：家庭から排出される水環境の保全

—担当課：環境政策課—

《概要》

有用微生物群発酵液の配布や、浄化槽の設置に対する支援を行います。

目的		家庭から排出される水が浄化されている。		
成果 指標	指標名	主要河川BOD ^{※12} 値の環境基準適合率	目標値 (H23年度)	100%
	指標設定 根拠・背景	河川のBOD値が環境基準に適合していることは、家庭から排出される水が浄化されている状態である。(平成27年度目標値：100%)	現状値 (H19年度)	96.87%
資源投入 の方向性			縮小します	

※12 「BOD」・・・生物化学的酸素要求量＝水中の有機物（汚水の原因）を微生物が分解するのに必要な酸素の量を表す指標

◇ 単位施策－33：公共下水道（污水）の整備促進

—担当課：下水管理課，下水建設課—

《概要》

快適な生活環境の整備のため，公共下水道の推進を図ります。

目的		汲み取り式便所，単独及び合併処理浄化槽による汚水処理が，公共下水道による汚水処理に切り替わることにより，快適な生活環境が創出されている。		
成果指標	指標名	公共下水道処理人口普及率	目標値 (H23年度)	46.6% 以上
	指標設定 根拠・背景	公共下水道処理人口普及率が増加することは，公共下水道による汚水処理に切り替わり，快適な生活環境の創出につながる。(平成27年度目標値：52.2%以上)	現状値 (H19年度)	41.3%
資源投入の方向性		 現状を維持します		

●施策－１２：身近な生活環境を守る活動の推進

—担当部：環境部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

良好な生活環境の下で，健康で安全な暮らしを営んでいます。

【行政の使命（ミッション）】

自主的な環境美化活動を推進し，公衆衛生の向上を図ります。

【重点戦略】

◆なし

【具体的な取り組み】

◇ 単位施策－34：環境美化及び公衆衛生の向上

—担当課：環境政策課—

《概要》

雑草除去等の自主的な環境美化活動等を推進します。

目的		公衆衛生が向上し，快適な生活環境が確保されている。		
成果 指標	指標名	雑草・ハチ等に関する 苦情・相談件数	目標値 (H23年度)	180件 以下
	指標設定 根拠・背景	苦情・相談件数の減少は，市民の快適な生活環境の確保につながる。 (平成27年度目標値：165件)	現状値 (H19年度)	192件
資源投入 の方向性			縮小します	

◇ 単位施策－35：環境基準の遵守

—担当課：環境政策課—

《概要》

定期的に大気や水質等に関する測定を行います。

目的		環境基準が達成されていることにより、快適な環境が守られている。		
成果指標	指標名	年間測定回数に対する大気汚染防止法等に基づく基準達成率	目標値 (H23年度)	99% 以上
	指標設定 根拠・背景	環境基準達成率が上昇することは、環境基準が遵守されていることである。(平成27年度目標値：100%)	現状値 (H19年度)	95%
資源投入の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－36：感染症の発生及び蔓延の防止

—担当課：環境政策課—

《概要》

害虫駆除剤の無料配布や屋内消毒機械の貸出を行います。

目的		有害虫の駆除により，感染症の発生や蔓延から守られている。		
成果 指標	指標名	感染症の発生報告件数	目標値 (H23年度)	0件
	指標設定 根拠・背景	報告件数がないことは，感染症の発生等を未然に防止している状態である。(平成27年度目標値：0件)	現状値 (H19年度)	0件
資源投入 の方向性			現状を維持します	

第3章 誰もが暮らしやすいまちづくり

§ 政策－5

みんなで支えあう福祉のまちをつくりま

●施策－13：福祉サービスの充実

—担当部：保健福祉部，都市整備部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

障がい者や高齢者等，誰もが住みよく，生きがいを持ち，安心して暮らせる地域社会となっています。

【行政の使命（ミッション）】

生活上，支援や介助を必要とする人に対し，生活の質を維持・向上させる真に必要な福祉サービスを提供します。

【重点戦略】

- ◆障がい者福祉の推進（保健福祉部）
- ◆高齢者福祉の推進（保健福祉部）

【具体的な取り組み】

◇ 単位施策－３７：障がい者福祉の推進

—担当課：障害福祉課，建築指導課—

《概要》

障がい者が地域で安心して暮らせるよう，障がい者施策の充実を図ります。

目的		障がい者が，地域において自立した日常生活を送るための支援や介護を受けている。		
成果指標	指標名	市内におけるケアホーム・グループホーム・施設入所支援の施設数	目標値 (H23年度)	13施設以上
	指標設定根拠・背景	居住系サービス施設の増加により，障がい者が地域において自立した生活を送ることにつながる。 (平成27年度目標値：15施設以上)	現状値 (H19年度)	4施設
資源投入の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－38：生活保障の確保

—担当課：生活支援課，保険年金課—

《概要》

生活保護法等に基づく生活保障と自立支援等を行います。

目的		生活保障を必要とする市民が，扶助や支援を受け，自立に向けて暮らしている。		
成果 指標	指標名	ケースワーカーの訪問 計画に対する訪問活 動の割合	目標値 (H23年度)	100% 以上
	指標設定 根拠・背景	訪問活動の割合が高まる ことにより，被保護世帯 の状況がその都度把握で き，必要な支援・相談を 行うことができる。(平 成27年度目標値：100% 以上)	現状値 (H19年度)	96.8%
資源投入 の方向性		 現状を維持します		

◇ 単位施策－39：高齢者福祉の推進

—担当課：長寿社会課—

《概要》

高齢者がいつまでも自立した生活が送れるように在宅福祉サービス等を提供します。

目的		高齢者が住み慣れた地域（中学校区）や家庭でいつまでも元気に過ごしている。		
成果指標	指標名	高齢者福祉サービス事業の延べ利用者数（おむつ支給，ふとん丸洗い，緊急通報システム）	目標値（H23年度）	延べ1,100人以上
	指標設定根拠・背景	高齢者の在宅福祉サービス事業の利用者が増加することは，在宅生活支援サービスの充実につながる。（平成27年度目標値：延べ1,500人以上）	現状値（H19年度）	延べ997人
資源投入の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－４０：介護保険の推進

—担当課：長寿社会課—

《概要》

高齢者がいつまでも活動的にいられるように介護予防事業を重点的に行い、介護保険料の納付を促進します。

目 的		介護保険事業が安定した運営を将来的にも維持できている。		
成果 指標	指標名	特定高齢者の介護予防事業への参加者数	目標値 (H23年度)	200人 以上
	指標設定 根拠・背景	介護が必要となるおそれのある特定高齢者が、介護予防事業に参加することにより、介護保険の給付額の抑制につながり、さらに、これが介護保険事業の安定した運営と維持につながる。(平成27年度目標値：500人以上)		現状値 (H19年度) 66人
資源投入 の方向性		 現状を維持します		

◇ 単位施策－４１：市営住宅の維持・保全・更改

—担当課：住宅課—

《概要》

市営住宅を適正に管理し，住宅に困窮する低所得者等に供給するとともに状況に応じた整備を行います。

目 的		低所得者等が，公的住宅に入居し，居住の安定が図られている。		
成果 指標	指標名	市営住宅稼働率	目標値 (H23年度)	96.14%
	指標設定 根拠・背景	市営住宅稼働率が上昇することは，市営住宅が効率的に供給され，低所得者等の居住の安定が進んでいることにつながる。 (平成27年度目標値：98%)		現状値 (H19年度) 93.08%
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－４２：地域福祉活動の推進

—担当課：生活支援課—

《概要》

地域福祉を支える関係団体等を支援したり，福祉に関心を持つ機会を提供したりします。

目的		地域住民が，互いに支え合う地域づくりに取り組んでいる。		
成果指標	指標名	民生委員児童委員が行った相談・支援日数	目標値 (H23年度)	48,900日以上
	指標設定 根拠・背景	住民の一番身近なところで相談・支援を行っている民生委員児童委員の活動が活発になることは，地域福祉の推進につながる。(平成27年度目標値：49,300日以上)	現状値 (H19年度)	46,532日
資源投入の方向性			現状を維持します	

●施策－１４：労働環境の充実

—担当部：産業振興部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

年齢、性別や障がい等の有無にかかわらず、個性や特性を尊重し能力を引き出すことにより、働く意欲のある人が就労しています。

また、労働者の生活が安定した社会になっています。

【行政の使命（ミッション）】

関係機関と連携して、働く意欲のある人の就労を支援する基盤づくりを進めるとともに、市内中小製造業の人材の確保を図ります。

また、勤労者の福利厚生等の支援事業を促進します。

【重点戦略】

◆なし

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－４３：労働力の維持と雇用支援**

—担当課：産業政策課—

《概要》

ハローワーク・商工会議所等と連携して、働く意欲のある人の就労を支援するとともに、労働者の就労環境の整備・充実を図ります。

目的		働く意欲のある人が就労している。		
成果指標	指標名	ハローワーク 鈴鹿管内の就職率	目標値 (H23年度)	35% 以上
	指標設定根拠・背景	就職率の増加が、働く意欲のある人がより多く就職したことを示している。(平成27年度目標値：35%以上)	現状値 (H19年度)	31.5%
資源投入の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－44：勤労者福祉の促進

—担当課：産業政策課—

《概要》

勤労者団体等の福利厚生等の事業を支援します。

目的		勤労者の生活が安定し、ゆとりのある暮らしをしている。		
成果 指標	指標名	鈴鹿勤労者連絡協議会が開催する文化体育事業等への参加者数	目標値 (H23年度)	3,300人 以上
	指標設定 根拠・背景	文化体育事業等への参加者の増加は、勤労者がゆとりのある暮らしを送ることにつながる。(平成27年度目標値：3,500人)	現状値 (H19年度)	2,948人
資源投入 の方向性			現状を維持します	

§ 政策－ 6

い つ も 健 康 で 暮 ら せ る ま ち に し ま す

● 施策－ 15 : 健康づくりの推進

— 担当部 : 保健福祉部 —

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

子どもから高齢者まで、誰もが、健康への関心と必要な知識を持ち、自ら健康づくりに努めるとともに健康で明るく元気に生活できる地域社会になっています。

【行政の使命（ミッション）】

健康で活力ある少子高齢社会に向け、生活習慣を改善して健康増進、発病予防を推進します。

【重点戦略】

◆ 健康診査の充実（保健福祉部）

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－４５：健康づくりの啓発の推進**

—担当課：健康づくり課—

《概要》

健康づくりに関する知識が普及するよう啓発活動を推進し、健康教育、相談、指導事業の充実を図ります。

目 的		多様な機会を通して市民の健康への関心が高まり、健康づくり活動に取り組んでいる。		
成果 指標	指標名	健康教育、相談、指導を受けた人数	目標値 (H23年度)	29,600人 以上
	指標設定 根拠・背景	健康教育等の事業の参加者が増加することで、より多くの市民が健康づくりに取り組み、健康への意識が高まる。(平成27年度目標値：30,600人以上)	現状値 (H19年度)	27,800人
資源投入 の方向性		 現状を維持します		

◇ 単位施策－４６：健康診査の推進

—担当課：保険年金課，健康づくり課—

《概要》

健康診査，各種検診，及び予防接種事業を充実し，疾病の早期発見・予防を行います。

目的		市民が，適切に，健康診査，検診，予防接種を受けることにより，自ら健康づくりに取り組んでいる。		
成果指標	指標名	健康診査，検診，予防接種の受診者数	目標値 (H23年度)	112,200人以上
	指標設定 根拠・背景	健康診査等の受診者数が増加することにより，疾病の早期発見・予防の効果が高められる。 (平成27年度目標値：116,800人以上)	現状値 (H19年度)	95,500人
資源投入の方向性		 現状を維持します		

●施策－１６：医療体制・制度の充実

—担当部：保健福祉部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

子どもから高齢者まで、誰もが、いつでも、安心して医療を受けることができる地域社会になっています。

【行政の使命（ミッション）】

国民健康保険を適正に運営するとともに、医療費の助成を行い、負担の軽減を図ります。また、救急医療施設の適切な利用を促進し、救急医療体制の維持・充実を図ります。

【重点戦略】

◆応急診療体制の推進（保健福祉部）

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－４７：国民健康保険の適正な執行**

—担当課：保険年金課—

《概要》

国民健康保険制度加入者へ適切な医療給付と賦課を行います。

目 的		加入者の負担と給付が適正な状態に保たれ、国民健康保険制度が安定的に運営されている。		
成果 指標	指標名	収支比率〔歳入総額 (繰越金を除く) / 歳 出総額 × 100〕	目標値 (H23年度)	100%
	指標設定 根拠・背景	収支比率の向上は、国民健康保険財政の健全化を示し、国民健康保険制度の安定的な運営につながる。(平成27年度目標値：100%)	現状値 (H19年度)	100%
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－４８：医療費助成による生活の安定

—担当課：保険年金課—

《概要》

市民が安定して医療を受けることができるよう、医療費の助成を行います。

目的		医療費の助成対象者が、経済的な負担のために受診が抑制されないようになっている。		
成果指標	指標名	助成対象者数〔障がい者・65歳以上障がい者・一人親家庭等・乳幼児医療費助成制度対象者の計〕	目標値 (H23年度)	33,500人
	指標設定 根拠・背景	助成対象者数の増加は、経済的な負担のために受診が抑制されないような状況がつくられていることを表す。(平成27年度目標値：33,500人)	現状値 (H19年度)	21,214人
資源投入の方向性			拡大します	

◇ 単位施策－４９：医療体制の充実

—担当課：健康づくり課—

《概要》

一次及び二次救急医療^{※13}の連携の強化と、体制の維持、充実を図ります。

目的		市民が急病や不慮のけがのとき、いつも安心して医療機関で診察を受けることができる。		
成果指標	指標名	応急診療所の受診者数	目標値 (H23年度)	8,200人
	指標設定 根拠・背景	救急医療の適正な利用方法を広報することにより、休日、夜間に受診される緊急性のない軽症患者を抑制し、救急医療体制の維持を図る。(平成27年度目標値：8,200人)		現状値 (H19年度) 8,200人
資源投入の方向性		 拡大します		

※13 「一次救急医療」・・・入院治療の必要がない軽症の病気の場合の医療
 「二次救急医療」・・・一次救急医療機関からの紹介、入院治療を必要とする重症患者、または救急車で搬送される場合の医療

§ 政策－ 7

一人ひとりの人権が尊重され、誰もが参画できる社会の実現をめざします

● 施策－ 17 : 平等で平和な社会の実現

— 担当部 : 生活安全部, 教育委員会事務局 —

【めざす地域のすがた (ビジョン)】

お互いの人権を尊重し、平等で平和な社会を築くことを願い、市民一人ひとりが積極的に行動している地域社会になっています。

【行政の使命 (ミッション)】

平等で平和な社会の実現に向けて、市民や各種団体等の協力を得ながら、効果的な学習機会の提供を図ります。

【重点戦略】

◆ なし

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－５０：子どもの人権の保障**

—担当課：人権教育課—

《概要》

子どもたちが、共に生きる力を付けるための体験的活動を推進します。

目的		子どもが、自分らしさを表現する力と、仲間とつながる力を付けている。		
成果指標	指標名	子どもの居場所づくりへの参加者数	目標値 (H23年度)	3,200人以上
	指標設定根拠・背景	「であいひろば ^{※14} 」の年間参加者数が増加することは、子どもたちに仲間とつながる力が、より身に付いていることを表す。(平成27年度目標値：3,400人)	現状値 (H19年度)	2,859人
資源投入の方向性			現状を維持します	

※14 「であいひろば」・・・鈴鹿市人権教育センターにおいて、障がいのある児童生徒や外国人児童生徒、地域（主に神戸中学校区）の児童生徒が、ともに様々な活動を通して、お互いの違いを認め合い、お互いの人権を尊重して、仲間としてつながっていく資質を培う事業

◇ 単位施策－５１：人権・平和意識の高揚

—担当課：人権政策課—

《概要》

人権・平和問題についての理解が深まるよう、人権が尊重される社会づくりに向けた啓発事業の充実を図ります。

目的		市民が啓発イベントを通じ、平和の尊さや人権を尊重する意識を高めている。		
成果指標	指標名	啓発イベント等への参加者数	目標値 (H23年度)	2,900人
	指標設定 根拠・背景	啓発イベントに参加し、人権問題について理解する人が増えることで、人権が尊重される社会づくりにつながる。(平成27年度目標値：2,900人)	現状値 (H19年度)	2,460人
資源投入の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－５２：人権啓発・福祉・交流の総合的な取り組みの
推進

—担当課：人権政策課—

《概要》

隣保館、児童センターで幅広い年代の人たちが参加できる交流事業や児童の健全育成事業を総合的に実施します。

目的		幅広い年代の人たちの交流が行われている。		
成果 指標	指標名	隣保館・児童センター 事業への参加者数	目標値 (H23年度)	53,000人
	指標設定 根拠・背景	隣保館・児童センター事業への参加者数が増加することで、住民の交流や児童の健全育成が推進されていることを表している。(平成27年度目標値：53,000人)	現状値 (H19年度)	50,192人
資源投入 の方向性			現状を維持します	

●施策－１８：共生社会の実現

—担当部：生活安全部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

誰もが互いの文化や価値観を尊重し、地域社会をともに担う市民として暮らしています。

【行政の使命（ミッション）】

在住外国人を含むすべての市民が、互いの文化的違いを尊重し、安心して暮らせる社会づくりを進めるために、多言語での情報提供や多文化共生の啓発を図ります。

【重点戦略】

◆日本人と外国人の共生の推進（生活安全部）

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－５３：在住外国人との地域共生の推進**

—担当課：市民対話課—

《概要》

関係団体やボランティア等と連携し、多文化共生社会の推進を図ります。

目 的		互いの文化や習慣の違いを尊重し合い、地域で共生している。		
成果 指標	指標名	財団法人鈴鹿国際交流協会に登録しているボランティア人数	目標値 (H23年度)	130人以上
	指標設定 根拠・背景	登録者数から、市民の共生社会に対する意識を測ることができ、その増加は、地域共生が進むことにつながる。(平成27年度目標値：200人)	現状値 (H19年度)	110人
資源投入 の方向性			現状を維持します	

●施策－１９：男女共同参画社会の実現

—担当部：生活安全部，保健福祉部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

職場，家庭，地域，学校等のあらゆる場で，男女が対等なパートナーとしてお互いの生き方を尊重し合い，責任を分かち合いながら個性と能力を発揮できるような社会になっています。

【行政の使命（ミッション）】

政策方針決定過程への女性の参画を進めるとともに，性別による固定的な役割分担意識やそれに基づくDV^{※15}等の人権侵害行為をなくすための取り組みを行います。

また，市民がいきいきと暮らせるよう仕事と家庭生活，地域生活の両立が可能な仕組みづくりを進めます。

【重点戦略】

◆男女共同参画社会実現を担う人材育成の推進（生活安全部）

※15 「DV」・・・夫婦や恋人等，親密な関係にある男女間の身体的・精神的な暴力

【具体的な取り組み】

◇ 単位施策－５４：男女共同参画意識の普及

—担当課：男女共同参画課—

《概要》

広く市民に男女共同参画意識を浸透させるための啓発、学習講座の開催及び男女共同参画意識を持った市民活動団体・グループ等の育成支援を行います。

目的		広く男女共同参画意識が普及している。		
成果指標	指標名	男女共同参画意識の普及度	目標値 (H23年度)	70% 以上
	指標設定 根拠・背景	男女共同参画意識の普及度に関するアンケート結果の割合が増加することは、広く男女共同参画意識が普及していることを象徴的に表す。(平成27年度目標値：80%)	現状値 (H19年度)	52.8% (メルモニアンケートにおいて、自分が「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感しない、又はどちらかといえば同感しないと回答した人の割合)
資源投入の方向性		 現状を維持します		

◇ 単位施策－５５：男女共同参画の総合的な取組の推進

—担当課：男女共同参画課，子育て支援課—

《概要》

男女共同参画プラン※16を推進します。また，性別による固定的な役割分担意識に基づく，DV※17等の人権侵害行為への対策を行います。

目的		鈴鹿市が実施するあらゆる分野における施策に男女共同参画の視点が導入，推進され，総合的な取組が行われている。		
成果指標	指標名	審議会等への女性委員登用率	目標値 (H23年度)	35% 以上
	指標設定 根拠・背景	各課が実施する業務の政策方針を決定する審議会等への女性委員登用率の上昇は，それぞれの分野において男女共同参画推進意識が高まり，推進されていることを示す。 (平成27年度目標値：40%)	現状値 (H19年度)	25%
資源投入の方向性		 現状を維持します		

※16 「男女共同参画プラン」・・・男女共同参画推進条例に基づき策定している，施策の推進のための基本計画

※17 「DV」・・・夫婦や恋人等，親密な関係にある男女間の身体的・精神的な暴力

第4章 いきいきとした地域と活力を 生み出すまちづくり

§ 政策－8

人・物・情報が活発に行き交うまちをつくります

- 施策－20：人・物がスムーズに行き交う交通網の充実
—担当部：産業振興部，土木部，都市整備部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

都市の成長基盤を支える交通ネットワークが形成され，人・物がスムーズに行き交っています。

【行政の使命（ミッション）】

関係機関と連携して効果的・効率的な道路網の整備促進を図ります。また，公共交通網の維持，充実に向けて，利用者，事業者，行政等，関係機関が連携した取り組みを推進します。

【重点戦略】

- ◆ 公共交通の利便性向上（産業振興部）
- ◆ 幹線道路の重点整備（土木部）
- ◆ 基幹道路の計画的な整備推進（都市整備部）

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－５６：幹線道路の整備推進**

—担当課：道路整備課, 道路用地課, 市街地整備課—

《概要》

道路整備プログラムに基づき、優先度の高い道路から整備を進めます。

目 的		幹線道路が整備され、地域の交通利便性が向上している。		
成果 指標	指標名	幹線道路（都市計画道路）整備率	目標値 （H23年度）	59.4% 以上
	指標設定 根拠・背景	整備率の増加は、幹線道路（都市計画道路）の整備が進んでいる状況を示している。（平成27年度目標値：62.64%）	現状値 （H19年度）	51.7%
資源投入 の方向性			拡大します	

◇ 単位施策－５７：公共交通の利便性向上

—担当課：商業観光課—

《概要》

交通の不便な地域における生活交通の確保を図ります。また市域全体の公共交通網の維持・充実に向けた方向性やその方策について調査，検討します。

目的		自ら移動手段を持たない市民が，公共交通機関を使って円滑に移動できるようになっている。		
成果指標	指標名	コミュニティバスの年間利用者総数	目標値 (H23年度)	42万人以上
	指標設定 根拠・背景	利用者数の増加は，交通の不便な地域の交通手段が効率的に確保されていることを示し，自ら移動手段を持たない市民に対する公共交通の利便性の向上につながる。（平成27年度目標値：42万人以上）		現状値 (H19年度) 33万人
資源投入の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－５８：国・県の道路事業促進

—担当課：道路用地課，都市計画課—

《概要》

国・県が行う道路整備事業が促進されるように働きかけます。

目的		主要幹線道路の整備が促進されている。		
成果 指標	指標名	国道23号中勢バイパス， 国道1号北勢バイパス， 新名神高速道路，鈴鹿中 央線（神戸長沢線）の事 業整備率※18	目標値 (H23年度)	31% 以上
	指標設定 根拠・背景	事業整備率が上がることは，主要幹線道路の整備が促進されていることを示している。(平成27年度目標値：50%以上)	現状値 (H19年度)	22%
資源投入 の方向性		 拡大します		

※18 「事業整備率」・・・道路が完成し，供用できた延長の割合（供用延長÷都市計画延長）

●施策－ 2 1 : 経済活動が活発化する市街地の創造

—担当部：産業振興部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

快適で暮らしやすい街並みが創造され、中心市街地^{※19}における経済活動が活発になり、にぎわいのあるまちになっています。

【行政の使命（ミッション）】

地域の特性を生かし、地域が主体となって進めていく中心市街地における商業活性化への取り組みを支援します。

【重点戦略】

◆なし

※19 「中心市街地」・・・白子駅西を中心とした233haの区域

◇ 単位施策－５９：中心市街地と商業の活性化

—担当課：商業観光課—

《概要》

商業団体や商工会議所と連携により、活性化のための協議会を設置し、イベントや空き店舗対策事業を実施するほか、商店街の環境整備を図っていきます。

目的		中心市街地 ^{※20} がにぎわいを取り戻し、商業活動が活性化している。		
成果指標	指標名	白子駅西商店街の空き店舗数	目標値 (H23年度)	0店
	指標設定 根拠・背景	中心市街地活性化基本計画エリア内の白子駅西商店街の空き店舗を無くすことは、中心市街地がにぎわいを取り戻し、商業活動の活性化につながる。(平成27年度目標値：0店)	現状値 (H19年度)	1店
資源投入の方向性			現状を維持します	

※20 「中心市街地」・・・白子駅西を中心とした233haの区域

●施策－２２：情報通信インフラの活用と次世代への対応

—担当部：総務部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

いつでも、どこでも、誰もが情報を取得し共有することができる
情報格差のないまちになっています。

【行政の使命（ミッション）】

市民みんなが情報通信ネットワークを容易に利用できる情報基盤
の整備を行います。

【重点戦略】

◆なし

【具体的な取り組み】

◇ 単位施策－60：ユビキタスネット社会^{※21}への対応

—担当課：市政情報課—

《概要》

高齢者・初心者向けのパソコン講習等による情報技術の習得や世代を超えた情報共有化に向けた取組を進めます。

目的		誰もが情報技術を習得し、情報を安全に共有・交換できるようになっている。		
成果指標	指標名	高齢者や初心者向けパソコン講習受講者の理解度	目標値 (H23年度)	100%
	指標設定根拠・背景	パソコン講習の理解度が上がることは、市民が情報技術を習得していることを示し、情報格差の解消につながる。(平成27年度目標値：100%)	現状値 (H19年度)	82%
資源投入の方向性		 現状を維持します		

※21 「ユビキタスネット社会」・・・ICT（情報通信技術）が生活の隅々に溶け込むことによって、これまで通信機器とは思われていなかったものも含む、あらゆる人や物が結びつくという基盤性に着目した「ユビキタス」理念に基づき、高齢者や障がい者も含め、誰でも簡単にICTを利用でき、世代や地域を越えたコミュニケーションが盛んになる、人にやさしい心と心の触れ合いが期待される社会のこと

§ 政策－ 9

地域の個性と暮らしの利便性を高めます

●施策－ 23：生活の快適性・利便性の向上

—担当部：生活安全部，土木部，都市整備部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

快適で便利な都市環境の下で，市民の多くが住み続けたいという思いをもって暮らしています。

【行政の使命（ミッション）】

快適な都市環境の骨格となる道路，良質な宅地，憩いの空間等，まちを形づくる要素を適正に整えます。

【重点戦略】

◆なし

【具体的な取り組み】

◇ 単位施策－61：良好な住環境の創造・保全

—担当課：市街地整備課，建築指導課—

《概要》

土地区画整理事業を進め，道路・公園・宅地を総合的に整備します。また，中高層建築物等を建築する場合，住環境を損なうことのないよう必要な措置を講じます。

目的		都市環境が整備され，快適で利便性の高い生活の場となっている。		
成果指標	指標名	区画整理事業整備率	目標値 (H23年度)	46.3% 以上
	指標設定 根拠・背景	区画整理事業の整備率が増加することは，事業地内の住環境がより多く整備されている状態を示し，都市環境が整備され，快適で利便性の高い生活の場となることにつながる。(平成27年度目標値：100%)	現状値 (H19年度)	0%
資源投入の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－62：住居表示の推進

—担当課：地域課—

《概要》

地域（自治会）からの要望のある区域，区画整理実施区域で住居表示を実施します。

目的		地番表示での混乱が解消され，住所が分かりやすくなっている。		
成果 指標	指標名	市街化区域内における住居表示実施率	目標値 (H23年度)	60%
	指標設定 根拠・背景	実施率の上昇が，地番表示の混乱解消につながり，市民の住所が分かりやすくなる。(平成27年度目標値：60%)	現状値 (H19年度)	58.4%
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－63：地籍調査の推進

—担当課：土木総務課—

《概要》

現地の正確な実態を正しく反映していない登記簿や公図を使用している地域の地籍の調査と調査成果の管理・情報提供業務を行います。

目 的		市民等が自らの土地を正確に把握し，土地の保全，利用，取引等を適正かつ円滑に行っている。		
成果 指標	指標名	地籍調査の進捗率	目標値 (H23年度)	0.69%
	指標設定 根拠・背景	進捗率が増加することは，より多くの土地について境界や所有者等が明確になっていることを示し，土地の適正な管理につながる。(平成27年度目標値：1.26%)		現状値 (H19年度) 0.25%
資源投入 の方向性			現状を維持します	

●施策－24：景観に配慮しつつ個性を活かした計画的なまちづくり

—担当部：都市整備部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

職場・住居等の環境が調和し、地域の個性を活かした土地利用が行われています。さらに市民とともに景観に配慮したまちづくりが進み、市民がゆとりと豊かさを実感しながら生活をしています。

【行政の使命（ミッション）】

景観に配慮した持続的・計画的な土地利用を図り、調和のとれたまちづくりを推進します。また、地域の特性を発揮できる景観づくりのための計画策定や条例化等を市民とともに進めます。

【重点戦略】

- ◆市民意識を踏まえた景観創造・保全のルールづくり及び規制の実施（都市整備部）
- ◆快適で暮らしやすい都市環境の創造（都市整備部）

【具体的な取り組み】

◇ 単位施策－64：美しい街並みや景観の創造と保全

—担当課：都市計画課—

《概要》

景観づくりに関するルールをつくり、規制・誘導を行い、市民とともに景観に配慮したまちづくりを進めます。

目的		景観に配慮したまちづくりが進み、良好な景観が創造・保全されている。		
成果指標	指標名	景観に影響を与える届出対象行為のうち、指導・誘導により行為内容が改善した割合	目標値 (H23年度)	80%以上
	指標設定根拠・背景	改善割合が上昇することは、景観に配慮したまちづくりが進んでいることを示し、良好な景観が保全・創造されることにつながる。(平成27年度目標値：85%以上)	現状値 (H19年度)	未実施
資源投入の方向性			拡大します	

◇ 単位施策－65：計画的な土地利用の誘導

—担当課：都市計画課—

《概要》

将来迎える人口減少・高齢化社会に対応できるよう持続可能な土地利用を市民に示し、計画的なまちづくりの誘導を図ります。

目的		市民・事業者・行政が地域の特色を活かした土地の有効利用をしている。		
成果 指標	指標名	市街化区域内の宅地化率	目標値 (H23年度)	58% 以上
	指標設定 根拠・背景	宅地化率が上がることは、用途に応じ、土地が有効に利用されていることを示している。(平成27年度目標値：59%以上)	現状値 (H19年度)	57%
資源投入 の方向性			現状を維持します	

§ 政策－１０

地域経済を支える豊かな産業を活かします

●施策－２５：蓄積された知識と技術の活用による競争力の向上

—担当部：産業振興部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

中小企業の自立・発展により、経営が拡大しています。また、食の安全への関心が高まり、多くの市民が地元農水産物を積極的に消費しています。

【行政の使命（ミッション）】

中小企業に対するものづくり支援活動を行います。また、地産地消の推進や安全な農水産物への理解促進を図ります。

【重点戦略】

- ◆地元農水産物の消費拡大の推進（産業振興部）
- ◆中小企業の高度化・付加価値化の推進（産業振興部）

【具体的な取り組み】

◇ 単位施策－６６：地元農水産物の消費拡大の推進

—担当課：農林水産課—

《概要》

直販所設置推進や農業体験イベント等の生産者と消費者との交流を通じて、地元農水産物の安全性の理解促進を図り、地産地消を推進します。

目的		地元農水産物が、地元で消費されている。		
成果指標	指標名	農協及び漁協の農水産物直売施設の販売額	目標値 (H23年度)	354,211 千円以上
	指標設定 根拠・背景	農協及び漁協の農水産物直売施設の販売額の増加は、地産地消が進んでいることを示している。(平成27年度目標値：389,632千円)	現状値 (H19年度)	322,010 千円
資源投入 の方向性		 拡大します		

◇ 単位施策－67：中小企業の高度化・高付加価値化の推進

—担当課：産業政策課—

《概要》

ものづくり動く支援室のアドバイザー※22派遣や商工会議所等関係機関の連携等により、中小製造業の経営改善を支援します。

目的		中小製造業が経営を改善し、生産性が向上している。		
成果指標	指標名	支援を受けた企業の件数	目標値 (H23年度)	60件 以上
	指標設定 根拠・背景	支援件数が増加することは、多くの企業が課題解決に向けた取り組みを実施している状態であり、経営改善が進み、生産性が向上することにつながる。(平成27年度目標値：60件以上)	現状値 (H19年度)	46件
資源投入の方向性		 拡大します		

※22 「アドバイザー」・・・企業でノウハウを習得したOB

●施策－２６：持続的で安定した経営基盤づくり

—担当部：産業振興部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

次代を担う後継者が育ち、発展的な経営が行われ、生産性が向上しています。また、将来にわたって持続的で安定した、成長が可能となる経営が行われています。

【行政の使命（ミッション）】

担い手や後継者の確保・育成を図るとともに、効率的で健全な生産・経営を可能とする基盤の整備を行います。また、多面的機能が発揮できる生産環境の保全を図ります。

【重点戦略】

◆農地、漁場等の保全と担い手の育成（産業振興部）

【具体的な取り組み】

◇ 単位施策－68：中小企業の経営健全化促進

—担当課：商業観光課—

《概要》

商工会議所が行う中小企業指導育成事業を支援する。また、利子等に対する補給制度や金融機関に運用資金の原資を預託し、資金調達の円滑化を図る等、中小企業者の経営安定化に向けた支援を行います。

目 的		中小企業が、健全で安定した経営を行っている。		
成果 指標	指標名	鈴鹿商工会議所に会員登録し、経営指導を受けたり相談を行ったりしている中小企業者数	目標値 (H23年度)	3,700 事業所 以上
	指標設定 根拠・背景	経営指導を受けたり、相談を行ったりしている中小企業者数の増加は、中小企業の経営健全化につながる。(平成27年度目標値：3,700事業所以上)	現状値 (H19年度)	3,672 事業所
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－69：商店街の活性化促進

—担当課：商業観光課—

《概要》

商店街等が活性化を図るために自主的に取り組む事業に対して支援するほか、街路灯や駐車場等の共同施設の整備・維持に対する支援を行います。

目的		商店街等が、にぎわいを取り戻し、活性化している。		
成果 指標	指標名	鈴鹿市が支援する商店街等の活性化促進事業の実施件数	目標値 (H23年度)	8件 以上
	指標設定 根拠・背景	活性化促進事業の実施件数の増加は、意欲ある商店街等が自ら積極的に活動を展開し、活性化していることを表す。 (平成27年度目標値：8件以上)	現状値 (H19年度)	5件
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－70：地域農業と経営基盤づくり

—担当課：農業委員会—

《概要》

農地法等に基づき、農地の無秩序な開発の監視・抑止を図り、農地の公共的有益性を保護するとともに、優良農地^{※23}化の推進により耕作放棄地^{※24}の解消を図ります。

目的		農業者が農地の有効利用を図り、安定した農業経営を営んでいる。		
成果指標	指標名	耕作放棄地の面積	目標値 (H23年度)	10,717 a
	指標設定 根拠・背景	耕作放棄地の減少は、農地が有効に利用されている状況を示し、安定した農業経営を営むことにつながる。(平成27年度目標値：0 a)	現状値 (H19年度)	25,717 a
資源投入の方向性		 現状を維持します		

※23 「優良農地」・・・基盤整備が実施される等、集团的に活用できる、良好な営農条件を備えた農地

※24 「耕作放棄地」・・・1年以上耕作されていない農地

◇ 単位施策－7 1：農業及び漁業関連施設の充実と担い手の育成

—担当課：農林水産課—

《概要》

大規模共同利用施設や漁港施設等の整備拡充を図るとともに、認定農業者^{※25}や集落営農組織^{※26}等の担い手を育成します。

目 的		担い手が育成され、農業や漁業の生産効率が高まっている。		
成果 指標	指標名	認定農業者数	目標値 (H23年度)	265人 以上
	指標設定 根拠・背景	認定農業者の増加は、担い手が育成されていることを示し、農業の生産効率の向上につながる。 (平成27年度目標値：285人)		現状値 (H19年度) 242人
資源投入 の方向性		 現状を維持します		

※25 「認定農業者」・・・規模の拡大や生産管理の合理化等について作成した「農業経営改善計画」を鈴鹿市が認定した農業者

※26 「集落営農組織」・・・単一または数集落単位に、大半の農家の参加と出資、農地の利用調整等への合意に基づいて活動する集团的営農の組織

◇ 単位施策－72：農林水産業経営支援の促進

—担当課：農林水産課—

《概要》

農林水産業の担い手に、農地の面的集積^{※27}、技術指導、施設整備等のための各種資金調達等に関して、県普及センターや農協等関連機関と連携して経営を支援します。

目的		農林水産業の担い手が、効率的で安定した経営を行っている。		
成果指標	指標名	農業生産額	目標値 (H23年度)	1,601千 万円以上
	指標設定 根拠・背景	農業生産額の増加が、農業者の担い手が効率的で安定した経営を行っていることを示している。(平成27年度目標値：1,601千万円以上)		現状値 (H19年度) 1,601千 万円
資源投入 の方向性			現状を維持します	

※27 「面的集積」・・・規模拡大によるコストの低減等、農業の体質強化を図るために、担い手へ面的なまとまりのある形で農地の利用集積を行うこと

◇ 単位施策－73：農業生産基盤の整備推進

—担当課：耕地課—

《概要》

地元の要望により、用水路や農道、ため池等の農業生産基盤の整備を行います。

目的		農業者が効率的な生産が行えるようになっている。		
成果 指標	指標名	鈴鹿市単独事業による、改修の必要な農業用施設の整備率	目標値 (H23年度)	60% 以上
	指標設定 根拠・背景	改修の必要な農業用施設の整備が進むことは、効率的な農業生産につながる。(平成27年度目標値：70%)	現状値 (H19年度)	55%
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－74：多面的機能が発揮できる生産環境づくり

—担当課：農林水産課—

《概要》

農地の担い手への面的集積や農業振興地域整備計画の適正な運用及び間伐^{※28}等の森林整備を推進し、不耕作地及び森林荒廃の増加を防ぎ、農地や森林の保全を図ります。

目的		農地や森林が適正に管理・保全され、生産基盤、洪水防止、景観形成等の多面的機能が発揮されている。		
成果指標	指標名	農用地区域 ^{※29} 面積	目標値 (H23年度)	5,333ha 以上
	指標設定 根拠・背景	農用地区域面積の推移は、優良農地の保全状況や多面的機能の発揮状況を表す。(平成27年度目標値：5,303ha以上)		現状値 (H19年度)
資源投入の方向性		 現状を維持します		

※28「間伐」・・・樹木の生長過程で過密となった森林に対して、本数を減らすために抜き切りをする作業のことで、健全で活力ある森林を育成するために必要であるとともに、林内を明るくして下層植生を回復させ土壌の流亡を防ぐ。

※29「農用地区域」・・・集団的に存在する農地や農業生産基盤整備事業等の対象地等の優良な農地で、今後相当長期にわたり農業上の利用を確保すべき土地を、農業振興地域の整備に関する法律に基づき農用地区域として設定する。

◇ 単位施策－75：市内特産品の販路拡大の促進

—担当課：商業観光課—

《概要》

物産振興団体の活動や、物産展等のイベント開催を支援し、販路拡大に向けた取り組みを推進します。

目的		市内特産品が広く認知され、消費が拡大している。		
成果指標	指標名	物産展等における市内特産品の売上高	目標値 (H23年度)	14,845 千円以上
	指標設定 根拠・背景	売上高の上昇が、特産品の認知度の高まりや販路の拡大を示し、特産品の消費拡大につながる。 (平成27年度目標値：14,845千円以上)	現状値 (H19年度)	13,496 千円
資源投入の方向性			現状を維持します	

§ 政策－ 1 1

新たな活力を生み出す産業を振興します

●施策－ 2 7 : 新ビジネスの創造と産業の振興

—担当部：産業振興部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

企業の立地が進み、新しい分野の産業が創出、育成され地域の経済力が向上しています。

【行政の使命（ミッション）】

工業団地の確保等、企業を誘致するための基盤づくりを推進します。また、産学官の連携による研究開発や人材育成に取り組むとともに、新分野への進出を図る中小企業を支援します。

【重点戦略】

- ◆進出意欲をもつ企業の立地促進（産業振興部）
- ◆産学官連携による研究開発の促進（産業振興部）

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－76：新商品の開発の促進**

—担当課：産業政策課—

《概要》

農商工連携による付加価値の付いた商品づくりの取り組みを支援します。

目的		農業者と商工業者とが連携して新たに付加価値の付いた商品を開発し、販路を拡大している。		
成果指標	指標名	新しく開発された商品の件数	目標値 (H23年度)	3件
	指標設定根拠・背景	新商品の開発により需要が喚起され、販路の拡大につながる。(平成27年度目標値：3件)	現状値 (H19年度)	0件
資源投入の方向性		 現状を維持します		

◇ 単位施策－７７：進出意欲をもつ企業の立地促進

—担当課：産業政策課—

《概要》

工業振興条例に規定する工場設置奨励金等助成金を基に，進出意欲をもつ企業に対し各種支援を行います。

目 的		企業が，各種優遇策を用いて市内に進出している。		
成果 指標	指標名	工業振興条例の適用 を受けた企業の件数	目標値 (H23年度)	12件 以上
	指標設定 根拠・背景	条例適用件数が増加することは，企業立地が進んでいる状態を表す。 (平成27年度目標値：12件以上)	現状値 (H19年度)	7件
資源投入 の方向性			拡大します	

◇ 単位施策－78：地場産業の需要開拓の促進

—担当課：産業政策課—

《概要》

新しい利用価値をもった伝統工芸品の商品開発を支援します。

目的		伝統工芸産業が新たな需要を開拓し、販路を拡大している。		
成果 指標	指標名	新しい利用価値をもった商品開発件数	目標値 (H23年度)	3件
	指標設定 根拠・背景	開発件数の増加が、新たな需要の喚起につながり、販路の拡大になる。(平成27年度目標値：4件)	現状値 (H19年度)	2件
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－79：新産業の集積の促進

—担当課：産業政策課—

《概要》

燃料電池分野をはじめとする新分野^{※30}の開発に参画する企業を支援します。

目的		市内の中小企業が、燃料電池等新分野の開発により新たな事業を展開し、燃料電池をはじめとする新分野の産業集積が図られている。		
成果指標	指標名	燃料電池関連機器 ^{※31} 等開発に参画する企業数	目標値 (H23年度)	2社以上
	指標設定 根拠・背景	参画する企業の増加は、燃料電池等の新しい分野の事業集積が図られていることを示している。(平成27年度目標値：2社以上)	現状値 (H19年度)	1社
資源投入の方向性		 拡大します		

※30「新分野」・・・技術開発を基に新市場の開拓を可能とする分野。具体的には、健康福祉、農業分野へのIT導入、再生エネルギー、微細加工（ナノテク）、製造技術（航空機分野、ユニット化等）、風力・太陽光等エネルギー分野等を指す。

※31「燃料電池関連機器」・・・燃料電池を構成する部材であり、ポンプ、ブロワ、弁類、センサ、流量計等に代表される。これら部材の開発は全体のコスト削減に寄与する。

◇ 単位施策－８０：産学官の連携による研究開発と人材育成

—担当課：産業政策課—

《概要》

中小製造業が、大学等高等教育機関と共同で取り組む新技術の開発・研究を支援します。また、産学官^{※32}の交流事業により情報交換、人材育成を図ります。

目的		中小製造業の技術力が向上している。		
成果指標	指標名	ものづくり研究開発採択件数	目標値 (H23年度)	3件以上
	指標設定根拠・背景	採択件数の増加が、中小製造業の開発・研究意欲を促進している状態を示し、技術力の向上につながる。(平成27年度目標値：3件以上)	現状値 (H19年度)	2件
資源投入の方向性			拡大します	

※32 「産学官」・・・産業界、高等教育機関、行政機関

●施策－２８：豊かな自然と観光資源の活用

—担当部：産業振興部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

多彩な観光資源が活用され、地域が一体となった観光集客・交流が図られています。また、世界に「鈴鹿＝モータースポーツ都市」としてのブランドイメージが確立されています。

【行政の使命（ミッション）】

モータースポーツ観戦客へのおもてなしを推進し、モータースポーツの振興を図るとともに、モータースポーツと歴史、文化、自然の観光資源を有機的なつながりを持たせ、集客交流を促進します。

【重点戦略】

◆モータースポーツ都市としての確立（産業振興部）

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－ 8 1：観光資源の充実**

—担当課：商業観光課—

《概要》

観光振興団体への補助，海水浴場，鈴鹿山溪等観光施設の維持管理を行います。また，関係機関と連携して計画的な観光振興を図ります。

目 的		観光資源が充実し，多くの人が鈴鹿市を訪れ，交流が盛んになっている。		
成果 指標	指標名	観光客入込客数	目標値 (H23年度)	470万人 (+F1観 戦客30万 人)
	指標設定 根拠・背景	観光客入込客数が多いことは，観光地，または観光資源の魅力が高いことを示し，交流が盛んになっていることにつながる。(平成27年度目標値：500万人以上)	現状値 (H19年度)	403万人
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－ 8 2 モータースポーツの振興の促進

—担当課：商業観光課—

《概要》

モータースポーツの普及，理解促進のための事業を支援するほか，周辺自治体や関係機関と連携しながらF1日本グランプリの開催継続，並びにモータースポーツを利活用した観光振興事業を展開します。

目 的		市民が鈴鹿市におけるモータースポーツ振興の重要性を認識し，深い理解と関心を持っている。		
成果 指標	指標名	モータースポーツ市民の会等が開催するイベントへの参加者数	目標値 (H23年度)	5,000人
	指標設定 根拠・背景	参加者数の増加は，モータースポーツへの関心，理解の高まりを示している。(平成27年度目標値：5,000人以上)	現状値 (H19年度)	4,000人
資源投入 の方向性			拡大します	

第5章 安全で安心できるまちづくり

§ 政策－１２

災害に強いまちづくりを推進します

●施策－２９：防災対策の推進

—担当部：生活安全部，消防本部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

大規模地震等の災害時に，被害を最小限に抑制できるよう，市民や行政がそれぞれの行うべき役割を担っています。

【行政の使命（ミッション）】

地域防災計画・水防計画の見直しを進めながら，災害時の防災体制を充実します。また，防災に関する啓発活動等により，市民の防災力強化を図ります。

【重点戦略】

- ◆災害時の対応力の強化（生活安全部）
- ◆地域防災力の整備充実（消防本部）

【具体的な取り組み】

◇ 単位施策－８３：防災体制の充実

—担当課：防災安全課，生活支援課，消防課—

《概要》

地域防災計画の策定や総合防災訓練等を実施します。

目 的		鈴鹿市の防災体制が機能し，災害に迅速に対応している。		
成果 指標	指標名	鈴鹿市の防災対策事業に対する市民の認識率（市民防災講演会等でのアンケートで，鈴鹿市の防災対策事業（各項目）をどれだけ認識していますかという質問による回答率）	目標値 (H23年度)	70%
	指標設定 根拠・背景	市民が鈴鹿市の防災対策事業を認識することにより，災害時の迅速な対応につながる。（平成27年度目標値：80%）	現状値 (H19年度)	54.3%
資源投入 の方向性		 現状を維持します		

◇ 単位施策－84：市民の防災力強化

—担当課：防災安全課—

《概要》

自主防災隊の訓練や防災研修会を行い、市民の防災意識の向上と強化を図ります。

目的		市民一人ひとりが災害発生時には助け合って、防災活動を行える高い防災意識を持っている。		
成果指標	指標名	自主防災活動に対する市民の認識率（市民防災講演会等でのアンケートで、災害時自分たちで何（各項目）ができるのかを認識していますかという質問による回答率）	目標値 (H23年度)	70%
	指標設定 根拠・背景	市民が災害発生時に行う防災活動を認識することにより、地域の自主防災力の向上につながる。（平成27年度目標値：90%）	現状値 (H19年度)	50.1%
資源投入の方向性			現状を維持します	

●施策－３０：浸水・治水対策の推進

—担当部：土木部，都市整備部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

河川や下水道（雨水）等の整備が進み，浸水・洪水被害が軽減されており，市民が災害の不安から解消され，安心して暮らしています。

【行政の使命（ミッション）】

大雨の時の浸水・洪水被害を防止するため，河川の改修や下水道（雨水），排水路等の維持，整備を進め，浸水・洪水被害の解消に努めます。

【重点戦略】

- ◆排水施設の維持更新（土木部）
- ◆河川等の整備手法の見直し（土木部）

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－85：河川・排水路の整備推進**

—担当課：河川課—

《概要》

流下能力不足による浸水・洪水被害を防止するため、河川や排水路の改修等を行います。

目的		河川や排水路が整備され、浸水・洪水被害が軽減されている。		
成果指標	指標名	主要3準用河川の整備進捗率	目標値 (H23年度)	73.7%
	指標設定根拠・背景	3準用河川（金沢川・稻生新川・北長太川）の整備による被害軽減の効果が大きい。（平成27年度目標値：85.0%）	現状値 (H19年度)	53.9%
資源投入の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－８６：河川等の維持管理

—担当課：河川課—

《概要》

浸水・洪水被害を防止するため、河川や排水路、海岸部の排水機
場・樋門施設の維持管理を行います。

目的		施設が適切に維持管理され、浸水・洪水被害が軽減されている。		
成果 指標	指標名	河川管理施設の不具合による浸水件数	目標値 (H23年度)	0件
	指標設定 根拠・背景	不具合を無くすことが、 浸水・洪水被害の軽減につながる。 (平成27年度 目標値：0件)	現状値 (H19年度)	0件
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－８７：都市浸水対策

—担当課：下水管理課，下水建設課—

《概要》

大雨による浸水被害の発生地域において，公共下水道雨水幹線及び雨水ポンプ場の新設・改築を行います。

目的		浸水被害が低減されている。		
成果 指標	指標名	都市浸水対策達成率	目標値 (H23年度)	28.42% 以上
	指標設定 根拠・背景	都市浸水対策達成率の増加は，雨水計画区域内の浸水対策が完了したことを示しており，浸水被害の低減につながる。 (平成27年度目標値：29.02%以上)	現状値 (H19年度)	27.90%
資源投入 の方向性		 現状を維持します		

●施策－31：地震災害対策の推進

—担当部：生活安全部，都市整備部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

大規模地震に備えて，建築物が地震に強い状態になっており，市民が安全に生活できる状態になっています。

【行政の使命（ミッション）】

東南海地震等による被害軽減のために，建築物等の耐震化の促進の向上を図ります。また，避難所においても市民が安全に生活できるよう整備します。

【重点戦略】

◆なし

【具体的な取り組み】

◇ 単位施策－８８：建築物等の耐震化促進

—担当課：防災安全課，建築指導課—

《概要》

耐震診断・耐震補強工事を推進します。

目的		建築物が地震に強い状態になっており，被害が軽減されている。		
成果指標	指標名	建築物の耐震化率※33	目標値 (H23年度)	87.4%
	指標設定 根拠・背景	建築物の耐震化率が向上することは，地震発生時の建築物の安全性が確保され，被害が軽減されることにつながる。 (平成27年度目標値：94%)	現状値 (H19年度)	80.4%
資源投入の方向性			現状を維持します	

※33 「建築物の耐震化率」・・・地震防災対策において重要な建築物である住宅・特定建築物・避難施設のうち，昭和56年6月以降に建築された建築物及び昭和56年6月以前に建築された建築物で耐震診断や耐震補強により安全性が確認された建築物の割合

特定建築物：建築物の耐震改修の促進に関する法律第6条に規定する建築物

◇ 単位施策－８９：避難所の整備

—担当課：防災安全課—

《概要》

避難所の耐震化，避難所での飲料水やトイレの確保等を行います。

目的		地震発生時に市民が支障なく避難生活を送っている。		
成果 指標	指標名	避難所の整備率	目標値 (H23年度)	59.6%
	指標設定 根拠・背景	避難所の整備率が向上することは，地震発生時に避難所の機能が確保され，市民が支障なく避難生活を送れることにつながる。(平成27年度目標値：74%)		現状値 (H19年度) 47.8%
資源投入 の方向性			現状を維持します	

§ 政策－１３

安 全 な ま ち を め ざ し ま す

●施策－３２：消防力の強化

—担当部：消防本部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

消防体制を整備することにより、水火災を防除し、地震災害の被害を軽減して、市民の生命・身体・財産が保護されています。

【行政の使命（ミッション）】

大規模地震等の災害に即応する消防庁舎を整備し、火災をはじめ、重大事故、特殊災害等に対応できる消防自動車や資機材の更新整備をします。

【重点戦略】

◆消防体制の充実強化（消防本部）

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－90：地域消防力の整備充実**

—担当課：消防総務課，消防課—

《概要》

消防団車両が整備され，消防団の機能向上と自主防災隊との連携及び大規模災害時に対応する消防団防災支援協力者の育成指導を行います。

目的		市民防災力の意識が高まっている。		
成果指標	指標名	消防団が指導した自主防災隊の訓練参加者数	目標値 (H23年度)	2,500人
	指標設定根拠・背景	地域防災の要である消防団が，自主防災隊の防災訓練を指導し，その訓練参加者数が増加することは，市民防災力の意識の高揚につながる。 (平成27年度目標値：2,990人以上)	現状値 (H19年度)	1,320人
資源投入の方向性			拡大します	

◇ 単位施策－91：消防体制の充実強化

—担当課：消防総務課，消防課，情報指令課—

《概要》

消防庁舎建設，消防車両，消防資機材，水利等を整備し，複雑多様化する各種災害に対応できる消防体制の充実強化を図ります。

目 的		建物火災の被害が，効率的な消火活動により最小限に抑えられている。		
成果 指標	指標名	消防車の平均到着時間	目標値 (H23年度)	10.0分
	指標設定 根拠・背景	緊急自動車の災害現場への早い到着は，到着後の消防隊の活動を早め，火災の延焼拡大を阻止することができ，火災の被害が最小限に抑えられることにつながる。 (平成27年度目標値：10.0分以内)		現状値 (H19年度) 11.4分
資源投入 の方向性			拡大します	

●施策－３３：交通安全対策の推進

—担当部：生活安全部，土木部，都市整備部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

市民が交通安全活動に取り組んでいます。また，利用者が道路を安全・安心に通行しています。

【行政の使命（ミッション）】

関係機関との連携のもと，市民と行政が協働して交通安全意識の高揚を図ります。また，利用者が安全・安心に通行できるよう生活道路・橋梁・交通安全施設の維持管理，整備を進めます。

【重点戦略】

◆地元の連携による生活道路の整備（土木部）

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－ 9 2 : 交通安全意識の高揚**

—担当課：防災安全課—

《概要》

関係機関と連携して交通安全教育・街頭啓発活動を拡充します。

目 的		市民が交通事故に遭わず安全・安心に生活している。		
成果 指標	指標名	交通事故死傷者数	目標値 (H23年度)	1,700人 以下
	指標設定 根拠・背景	市内で発生した交通事故死傷者数の減少は、市民の交通安全意識の高揚が図られ、安全・安心に生活していることを示している。(平成27年度目標値：1,400人以下)	現状値 (H19年度)	1,911人
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－93：生活道路の整備推進

—担当課：道路整備課，道路用地課，建築指導課—

《概要》

地元要望に基づく生活道路の整備を進めます。

目的		道路利用者が円滑に安心して通行している。		
成果 指標	指標名	市道整備率	目標値 (H23年度)	46% 以上
	指標設定 根拠・背景	市道整備率の増加は、生活道路の整備が推進され、道路利用者が円滑に安心して通行していることを示している。(平成27年度目標値：47%)		現状値 (H19年度) 45%
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－94：交通安全施設の整備推進

—担当課：道路保全課—

《概要》

歩道や道路反射鏡等の安全施設の整備を進めます。

目的		市内道路の利用者が安全に通行している。		
成果 指標	指標名	市道における死傷者 事故件数	目標値 (H23年度)	650件 以下
	指標設定 根拠・背景	市道における死傷者事 故件数の抑止は、交通安 全施設の整備が推進さ れ、利用者が安全に通行 していることを示して いる。(平成27年度目標 値：577件以下)	現状値 (H19年度)	652件
資源投入 の方向性			拡大します	

◇ 単位施策－95：市道の維持管理

—担当課：土木総務課，道路保全課—

《概要》

道路パトロールを実施し，舗装や側溝の維持管理に努めます。

目的		市道が利用者にとって安全で安心して通行できるように適切に維持管理されている。		
成果指標	指標名	舗装の陥没等に起因する事故件数	目標値 (H23年度)	7件以下
	指標設定 根拠・背景	舗装の陥没等に起因する事故件数の抑止は，市道の維持管理が図られたことを示している。(平成27年度目標値：0件)	現状値 (H19年度)	8件 ※過去3年間(平成17～19年度)の平均値
資源投入の方向性			現状を維持します	

●施策－34：建築物の安全性確保

—担当部：都市整備部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

建築物の安全性が確保され，市民が安全に生活しています。

【行政の使命（ミッション）】

あらゆる建築物が建築基準法に適合するよう，指導・助言します。

【重点戦略】

◆なし

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－96：安全で良質な建築物の確保**

—担当課：建築指導課—

《概要》

建築確認申請の厳格な審査を行い、建築主に対して、完了検査の実施を徹底し適正に完了検査を行います。不特定多数の人が利用する建築物の適正な維持管理について指導します。

目 的		建築物の安全性が確保され、市民が安全に生活している。		
成果 指標	指標名	完了検査率	目標値 (H23年度)	90%以上
	指標設定 根拠・背景	完了検査を実施することで建築基準法に適合していることを確認できるため、完了検査率が向上することは建築物の安全性が確保され、市民が安全に生活していることにつながる。(平成27年度目標値：92%以上)		現状値 (H19年度) 87%
資源投入 の方向性			現状を維持します	

§ 政策－１４

安心できる市民生活を確保します

●施策－３５：防火・防犯対策の推進

—担当部：生活安全部，消防本部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

自主防火，自主防犯の組織が確立され，近隣住民同士が，安心して暮らせるまちになっています。

【行政の使命（ミッション）】

関係機関，団体等と連携し，市民，事業所等への火災予防啓発を推進するとともに，地域の特性に応じた犯罪防止の活動を推進します。

【重点戦略】

◆なし

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－97：防犯意識の高揚**

—担当課：防災安全課—

《概要》

警察、防犯協会等と連携し、防犯に関する啓発や防犯灯補助等を通じて犯罪防止の活動を推進します。

目的		市民が犯罪に対する不安を感じることなく安心して生活している。		
成果指標	指標名	犯罪認知件数	目標値 (H23年度)	3,100件 以下
	指標設定 根拠・背景	犯罪認知件数が減少することは、犯罪が減少していることであり、市民が安心して生活できることにつながる。(平成27年度目標値：2,800件以下)	現状値 (H19年度)	3,385件
資源投入の方向性		 現状を維持します		

◇ 単位施策－98：火災予防対策

—担当課：予防課—

《概要》

建物火災の発生状況の半数が住宅火災であり，事業所等への防火指導をはじめ，市民に住宅用火災警報器の設置を推進します。

目的		火災による負傷者等が減少している。		
成果 指標	指標名	住宅用火災警報器の 設置率	目標値 (H23年度)	100%
	指標設定 根拠・背景	単位施策の目的である 「住宅用火災警報器の 設置の増加が火災によ る負傷者の減少につな がる」状態を端的に表 す。(平成27年度目標 値：100%)	現状値 (H19年度)	41.00%
資源投入 の方向性		 現状を維持します		

●施策－36：救急・救命対策の推進

—担当部：消防本部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

不意な怪我や病気等に対応できる救急体制が整備され、市民が安心して暮らせるまちとなっています。

【行政の使命（ミッション）】

救急患者に対して適切な救命処置を施し、早期に医療機関へ搬送できる体制を整備するほか、市民への応急手当の普及啓発を行う等、市民と一体となった救急救命対策の推進を図ります。

【重点戦略】

- ◆救急業務高度化推進（消防本部）
- ◆救急患者収容システムの確立（消防本部）

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－９９：救急業務高度化の推進**

—担当課：消防課—

《概要》

医療機関との連携を図るとともに、救急隊員の養成や救急車両の整備、高度救急資機材の点検・整備、感染防止対策等を行います。

目 的		救急患者が早期に高度な救急措置を受けている。		
成果 指標	指標名	救急車の平均到着時間	目標値 (H23年度)	6.6分
	指標設定 根拠・背景	平均到着時間が短縮されることは、救急隊が救急患者のもとへ迅速に到着していることになり、救急患者が早期に高度な救急処置を受けられることにつながる。 (平成27年度目標値：6.6分以内)	現状値 (H19年度)	7.2分
資源投入 の方向性			拡大します	

◇ 単位施策－１００：応急手当の普及

—担当課：消防課—

《概要》

救急法講習会の開催や「市民救急の家」の募集等を行います。

目的		応急手当が普及し、救急現場に居合わせた人が、傷病者に応急処置をしている。		
成果 指標	指標名	救急現場での応急手当実施率	目標値 (H23年度)	3.1%
	指標設定 根拠・背景	応急手当実施率が向上することは、市民に応急手当が普及しており、傷病者に応急処置が施されていることにつながる。(平成27年度目標値：5.5%以上)	現状値 (H19年度)	1.3%
資源投入 の方向性			拡大します	

●施策－３７：上水道の安定供給

—担当部：水道局—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

市民が、ライフラインである水道水を安全・良質・安価で安定的に利用（需要）しています。

【行政の使命（ミッション）】

鈴鹿市上水道第5期拡張事業を基に、現在の料金体制を維持しながら、地震等災害対策と水質向上対策に重点を置いた施設整備を計画的に進めます。

【重点戦略】

- ◆水道施設整備計画の再構築（水道局）
- ◆効率的な水道企業経営（水道局）
- ◆市民サービスの向上（水道局）
- ◆PR・啓発の推進（水道局）

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－１０１：企業性を重視した水道事業の経営**

—担当課：水道総務課—

《概要》

水道事業の健全化を目指して、計画的かつ効率的な企業経営を推進します。

目的		水道事業が健全に経営されている。		
成果 指標	指標名	経常収支比率	目標値 (H23年度)	100% 以上
	指標設定 根拠・背景	経常収支比率は、収益性を見る際の最も代表的な指標であり、この比率が100%以上であれば黒字となり健全な経営であることを表している。 (平成27年度目標値：100%以上)	現状値 (H19年度)	108%
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－１０２：水道料金に関する事務の効率化

—担当課：営業課—

《概要》

民間へ業務委託することにより、水道事業の効率化と、より質の高い市民サービスを拡充します。

目的		多様なニーズに適応したサービスを提供することで、市民に廉価で安定した水を提供している。		
成果指標	指標名	水道料金収納率	目標値 (H23年度)	92.25% 以上
	指標設定 根拠・背景	収納率が向上することにより、水道事業経営が維持でき、廉価で安定した水の供給につながる。 (平成27年度目標値：92.25%以上)		現状値 (H19年度) 92.20%
資源投入の方向性		 現状を維持します		

◇ 単位施策－１０３：水道施設の整備・更新

—担当課：工務課—

《概要》

老朽管や取水・送水・配水施設の計画的な整備・更新を行います。

目 的		上水道が安全で安定的に供給されている。		
成果 指標	指標名	管路整備率	目標値 (H23年度)	10%以上
	指標設定 根拠・背景	老朽管の整備率が増加することは、漏水等の事故の発生率を低下させ、事故の発生が少なくなることにより安定的な上水道の供給が行える。 (平成27年度目標値：26%)		現状値 (H19年度) 2%
資源投入 の方向性		 拡大します		

◇ 単位施策－104：需要者ニーズを踏まえたサービスの充実

—担当課：工務課，営業課—

《概要》

市民からの給水申し込みに対して希望期間内に工事を実施します。

目的		市民が満足のいく水道サービスを受けている。		
成果 指標	指標名	受託工事に対する実施率	目標値 (H23年度)	100%
	指標設定 根拠・背景	希望期間内に工事が実施されていることは、市民が満足のいく水道サービスを受けていることにつながる。(平成27年度目標値：100%)	現状値 (H19年度)	100%
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－１０５：水道施設の維持管理

—担当課：工務課，水源課—

《概要》

水道施設の適正な維持管理を行うことで，水を安全で安定的に供給します。

目的		水道施設の毎日点検・保守を行うことにより，市民がおいしい水を飲んでいる。		
成果指標	指標名	塩素臭からみた，おいしい水達成率（水質基準を満たした上でよりおいしい水を給水するための指標は，残留塩素濃度が，0.4mg/l以下である。）	目標値 (H23年度)	100%
	指標設定根拠・背景	塩素臭からみた，おいしい水達成率の向上は，市民がおいしい水を飲めることにつながる。（平成27年度目標値：100%）	現状値 (H19年度)	100%
資源投入の方向性			現状を維持します	

●施策－38：相談機能の拡充

—担当部：生活安全部，産業振興部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

日常生活・消費生活に不安・問題を抱える市民が，専門的知識を持つ相談員から適切なアドバイスを受けてトラブルを解決し，安心な生活を送っています。

【行政の使命（ミッション）】

市民の幅広いニーズに応えられる専門的な相談員や消費者リーダー等の人材育成を行います。そして，安心して相談できる市民相談及び消費生活センターの機能の充実を図ります。

【重点戦略】

◆なし

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－１０６：安心できる消費生活の確保**

—担当課：産業政策課—

《概要》

消費者に啓発事業を通して正しい情報を提供します。また、消費生活センター等の周知を図り、相談機能を充実させます。

目的		消費者が、消費生活の正しい知識を身に付け、多様化・複雑化するトラブルを消費生活センター等に相談し、迅速に解決している。		
成果指標	指標名	消費生活センター相談件数	目標値 (H23年度)	1,600件以上
	指標設定根拠・背景	消費生活センター相談件数の増加は、消費生活の啓発事業やセンターの周知活動によってセンターの認知度が高まり、相談機能が充実していることを示し、トラブルの迅速な解決につながる。(平成27年度目標値：1,600件以上)	現状値 (H19年度)	1,455件
資源投入の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－１０７：市民相談窓口の充実

—担当課：市民対話課—

《概要》

市民の幅広いニーズに応えられる専門的な相談員の人材育成を行い、各種相談窓口を質・量ともに充実させ、あらゆる相談に対応します。

目的		市民が、日常生活の問題を、専門的知識を持つ相談員を有する相談窓口を利用し、迅速に解決している。		
成果指標	指標名	相談窓口利用件数	目標値 (H23年度)	2,100件 以上
	指標設定 根拠・背景	相談窓口利用件数の増加は、広報活動によって認知度が高まり、相談機能が充実していることを示し、市民の日常生活の問題が迅速に解決することにつながる。(平成27年度目標値：2,100件以上)	現状値 (H19年度)	2,013件
資源投入の方向性			現状を維持します	

第6章 構想の推進のために

§ 主要テーマー 1

市民みんなで取り組むまちづくりをめざします

●施策ー39：市民参加が活発なまちづくり

—担当部：生活安全部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

市民が主体となって市政や地域のまちづくりに参加し、住民自治が充実した、市民と行政による協働のまちづくりが推進されています。

【行政の使命（ミッション）】

地域住民・団体・企業等、多様な主体で構成される市民と行政が連携し、それぞれのもつ特性を活かし、責任と役割のもと市民がまちづくりに参加できる仕組みや社会環境づくりを進めます。

【重点戦略】

- ◆市民が主役のまちづくり（生活安全部）
- ◆地域の特色を生かした活動や市民活動の盛んなまちづくり（生活安全部）

【具体的な取り組み】

◇ 単位施策－１０８：市政への市民参加の推進

—担当課：地域課，各課—

《概要》

市民参加のあり方等を明確にした仕組みをつくり，市民参加を推進します。

目的		市民が積極的に市政の運営に参加している。		
成果指標	指標名	公募委員を選任している審議会等の割合	目標値 (H23年度)	20% 以上
	指標設定 根拠・背景	公募委員を選任している審議会等の割合が高まることは，市政における各種行政課題等に関し，積極的に市民が市政の運営に参加していることにつながる。(平成27年度目標値：35%)	現状値 (H19年度)	6%
資源投入の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－１０９：社会公益活動の支援

—担当課：地域課—

《概要》

公益かつ非営利の自発的・自主的な市民活動が積極的に行えるように、市民活動センターの設置等も含めた環境を整備することにより、社会公益活動を支援します。

目的		社会公益活動を行う団体が活発に活動をしている。		
成果 指標	指標名	鈴鹿市民活動情報サイト登録団体数	目標値 (H23年度)	100団体
	指標設定 根拠・背景	鈴鹿市民活動情報サイト登録団体数が増えることは、登録団体の情報発信や団体どうしのネットワークの構築が促進され、社会公益活動の活性化につながる。(平成27年度目標値：130団体)	現状値 (H19年度)	79団体
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－１１０：地域コミュニティの推進

—担当課：地域課—

《概要》

地域（最大を地区市民センターの所管区域，最小を公民館区域）の特色を活かして，市民主体の自主自立した地域づくり活動を推進します。

目 的		地域住民が地域づくり活動を活発に行っている。		
成果 指標	指標名	地域の課題を解決するために，地域住民や各種団体等で構成された地域組織の設立数	目標値 (H23年度)	18組織
	指標設定 根拠・背景	地域の課題を解決するために，地域住民や各種団体等で構成された地域組織の設立数が増えることは，自主・自立した地域づくり活動が推進されたことになる。 (平成27年度目標値：23組織)	現状値 (H19年度)	4組織
資源投入 の方向性			現状を維持します	

●施策－４０：情報共有の推進

—担当部：企画財務部，総務部，生活安全部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

対話や新しい技術等を用いた様々な方法により，情報を共有することで，市民生活に密着した身近な行政サービスが提供され，市民は快適な日常生活を送っています。

【行政の使命（ミッション）】

情報技術の進展を生かし，様々な方法で積極的に情報を発信するとともに，市民との対話を中心に多様化する市民ニーズを的確に把握し，市政に反映します。

【重点戦略】

- ◆多様な情報提供手段の推進（企画財務部）
- ◆対話中心の広聴の推進（生活安全部）

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－１１１：情報提供の推進**

—担当課：秘書広報課，市政情報課，各課—

《概要》

インターネットや「広報すずか」等，様々な方法で，情報提供を積極的に推進します。

目 的		市政情報や市民の情報ができるだけ多くの市民に提供され，関心を持たれている。		
成果 指標	指標名	ホームページへのアクセス数	目標値 (H23年度)	1,000万件
	指標設定 根拠・背景	インターネットは市民にとって身近な情報収集の手段となりつつあり，ホームページへのアクセス数が増えることは，市政に関する情報が多くの市民に提供され，関心を持たれていることを示している。(平成27年度目標値：1,000万件以上)		現状値 (H19年度) 616万件
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－１１２：広聴の推進

—担当課：秘書広報課，市民対話課，各課—

《概要》

「市政への提言」や「車座懇談会」等，様々な方法で，市民との対話を積極的に推進します。

目的		多様化する市民ニーズを的確に把握することにより，市民生活に密着した身近な行政サービスを提供している。		
成果指標	指標名	「市政への提言」による広聴を行った件数	目標値 (H23年度)	250件 以上
	指標設定 根拠・背景	手紙やメール等，様々な方法で寄せられる「市政への提言」による広聴件数の増加は，多様化する市民ニーズを的確に把握し，市民生活に密着した身近な行政サービスを提供することにつながる。（平成27年度目標値：250件以上）		現状値 (H19年度)
資源投入の方向性		 現状を維持します		

§ 主要テーマー 2

時代の変化に対応した行政経営をめざします

●施策－ 4 1：効果的・効率的な行政運営

—担当部：企画財務部，総務部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

鈴鹿市の行政組織が，より質の高い市民サービスを提供できる効果的・効率的な行政経営体となっています。

【行政の使命（ミッション）】

民間や国・県等と連携及び役割分担を図り，機動的な組織体制の構築と人材の育成による組織の活性化を図るとともに，シティセールスの展開のもと，計画的な行政経営を推進します。

【重点戦略】

- ◆シティセールスによる資源確保（企画財務部）
- ◆庁内分権と庁内連携の推進（企画財務部）
- ◆分権時代にふさわしい人材育成（総務部）

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－１１３：広域行政の推進**

—担当課：企画課，各課—

《概要》

県や関係市町とそれぞれの課題を共有し，その課題解決に向けた取り組みを行います。

目 的		広域的な取り組みにより，効果的・効率的に課題が解決されている。		
成果 指標	指標名	企画部局における，広域的な課題解決に向けた取組数	目標値 (H23年度)	4件
	指標設定 根拠・背景	取組数が増えることは，広域的な課題の解決につながる。(平成27年度目標値：5件)	現状値 (H19年度)	3件
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－114：総合的・計画的行政の推進

—担当課：企画課，財政課，各課—

《概要》

行財政経営計画や実施計画の進行管理や行政評価を適切に実施します。

目的		計画的に行政運営が行われるとともに，説明責任が果たされている。		
成果指標	指標名	単位施策評価の目標値に対する実績値	目標値 (H23年度)	80% 以上
	指標設定 根拠・背景	単位施策評価の目的が達成されることは，計画的に行政が運営されていることにつながる。 (平成27年度目標値：100%)	現状値 (H19年度)	56.6%
資源投入の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－１１５：民間活力の導入

—担当課：企画課，総務課，各課—

《概要》

公共的なサービスの提供における官民の役割を見直し、PFI制度や指定管理者制度等の手法による民間活力の導入を推進します。

目的		効率的で効果的な行財政運営を実現し、より質の高い市民サービスが提供されている。		
成果指標	指標名	指定管理者制度に基づき、民間が管理している公共施設数	目標値 (H23年度)	40施設
	指標設定根拠・背景	民間が管理している公共施設が増えることは、同じコストであれば、より質の高い市民サービスが提供され、効率的で効果的な行政運営がなされている状態であり、民間活力の導入につながる。(平成27年度目標値：40施設)	現状値 (H19年度)	32施設
資源投入の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－１１６：国・県との連携

—担当課：企画課，総務課，各課—

《概要》

積極的に要望活動を行い，また，情報を積極的に収集し，国や県との連携を密にします。

目 的		鈴鹿市だけでは解決できない課題を，国や県との連携によって適切に解決している。		
成果 指標	指標名	鈴鹿市からの要望事項に対する国・県の対応率	目標値 (H23年度)	80%
	指標設定 根拠・背景	対応率が上がることは，国や県の協力が得られたことになり，課題解決につながる。(平成27年度目標値：80%以上)	現状値 (H19年度)	75%
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－１１７：シティセールスの推進

—担当課：企画課，各課—

《概要》

SUZUKAと・き・め・きファン倶楽部^{※34}の支援や首都圏でのPR活動等により，鈴鹿市の魅力や個性を内外に効果的に売り込みます。

目的		鈴鹿市の将来都市像を安定的・持続的に具現化するために必要となる様々な資源を獲得している。		
成果指標	指標名	SUZUKAと・き・め・きファン倶楽部 ^{※32} の会員数	目標値 (H23年度)	500人以上
	指標設定 根拠・背景	会員数が増えることは，鈴鹿市の魅力や良さを内外に発信する情報や人が増えることになり，知名度の向上や資源獲得につながる。(平成27年度目標値：1,000人以上)	現状値 (H19年度)	3人
資源投入の方向性			拡大します	

※34 「SUZUKAと・き・め・きファン倶楽部」・・・鈴鹿の魅力を全国に発信する組織で，鈴鹿市のことが好きで，自主的に鈴鹿の魅力をPRしていただける個人の皆さんが集まってできた鈴鹿市のサポーターズクラブ（応援団）

◇ 単位施策－１１８：事務の効率化と行政コストの削減

—担当課：総務課，市政情報課，各課—

《概要》

行財政改革を進め，事務の効率化と行政コストを削減します。

目的		事務の効率化を進め，行政コストの増大を抑制することによって，効果的・効率的な行政運営が行われている。		
成果指標	指標名	人口千人当たりの職員数	目標値 (H23年度)	6.96人 以下
	指標設定 根拠・背景	地方分権に伴う権限移譲が進む中，人口千人当たりの職員数を低く維持することは，最小の規模で最大の効果を発揮している状態であり，事務の効率化と行政コストの削減につながる。 (平成27年度目標値：6.70人)		現状値 (H19年度) 7.27人
資源投入の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－１１９：機動的な組織・体制の推進

—担当課：人事課—

《概要》

職員定数の適正化によって、効率的に行政組織を運営します。

目 的		少ない職員数で組織が運営されている。		
成果 指標	指標名	定員適正化計画の目標達成率（実削減人数 / 目標削減人数 × 100）	目標値 （H23年度）	100%
	指標設定 根拠・背景	定員適正化計画の目標の達成は、行政組織としての機能性が高まっている状態であり、機動的な組織・体制づくりにつながる。（平成27年度目標値：100%）	現状値 （H19年度）	75%
資源投入 の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－１２０：人材の育成と適正な人事管理

—担当課：人事課—

《概要》

効果的な職員研修によって、人材育成と適正な人事管理を行います。

目的		職員が研修により政策形成能力，専門知識，業務意欲を高めることによって，人材育成が進み，人事管理面においても効果的な行政運営が行われている。		
成果指標	指標名	研修に関する職員満足度（受講職員アンケートにおける５段階評価の平均値）	目標値 (H23年度)	4.2
	指標設定根拠・背景	研修に関する高い職員満足度を確保することは，職員の能力や業務意欲が向上している状態であり，人材の育成と適正な人事管理につながる。（平成27年度目標値：4.2）	現状値 (H19年度)	4.2
資源投入の方向性		 現状を維持します		

●施策－４２：健全な財政運営

—担当部：企画財務部—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

自主財源が安定的に確保され、地方分権時代において、多様化する市民ニーズに的確に対応し、自主的で自立した行政経営が実践されています。

【行政の使命（ミッション）】

自立し、安定した財政運営を行うため、新たな納税方法や新たな徴収手法の導入等により、自主財源の積極的な確保を図ります。また、計画的で、均衡のとれた歳入と歳出予算により、健全な財政を維持し、社会経済情勢の変化に十分対応できる弾力性のある財政基盤の確立を進めます。

【重点戦略】

◆なし

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－１２１：自主財源の積極的な確保**

—担当課：納税課，市民税課，資産税課，各課—

《概要》

市税を適正に課税するとともに，新たな納税しやすい収納システムや新たな徴収手法を導入して収納率の向上を図り，また使用料・手数料等の，自主財源の積極的な確保を図ります。

目的		新たな収納システムにより，収納環境が充実し，市民が納税しやすくなっている。また，新たな徴収手法の導入により，市民の自主納付意識が高まっている。		
成果指標	指標名	現年度課税分収納率	目標値 (H23年度)	97.88% 以上
	指標設定 根拠・背景	収納率が向上するためには，市民が納税しやすい環境や自主納付意識を高める徴収手法が整備されていることが必要であり，これらのことで自主財源の確保につながる。(平成27年度目標値：97.88%以上)		現状値 (H19年度)
資源投入の方向性		 拡大します		

◇ 単位施策－１２２：計画的・効率的な財政運営

—担当課：企画課，財政課—

《概要》

予算編成において、計画的で、均衡のとれた歳入と歳出予算により、健全な財政運営を行います。

目的		多様化する市民ニーズや社会情勢の変化に弾力的に対応するための、安定的な財政基盤が確立されています。		
成果指標	指標名	経常収支比率	目標値 (H23年度)	80.0%
	指標設定 根拠・背景	経常収支比率は、経常的に収入される税等の一般財源等を人件費や扶助費、公債費等の経常的な支出に充てた割合のことで、経常収支比率が低いことは、財政運営が健全かつ弾力的に行われている状態であり、計画的・効率的な財政運営につながる。(平成27年度目標値：80.0%)		現状値 (H19年度) 82.0%
資源投入の方向性			現状を維持します	

●施策－４３：適正な事務運営

—担当部：企画財務部，総務部，生活安全部，会計課，
選挙管理委員会事務局，監査委員事務局—

【めざす地域のすがた（ビジョン）】

行政機能が適正に働き，市民が安心して日常生活を送っています。

【行政の使命（ミッション）】

法令等に基づく鈴鹿市の事務や資産管理等を公正で正確，適正に行うとともに，監査，検査機能の充実を図ります。

【重点戦略】

◆公共工事の品質確保（総務部）

【具体的な取り組み】

◇ **単位施策－１２３：法令等に基づく事務の推進**

—担当課：市民税課，資産税課，総務課，契約調達課，工事検査課，市民課，会計課，選挙管理委員会事務局，各課—

《概要》

法令，条例及び規則等に基づき，公正で正確・適正な事務を執行します。

目的		鈴鹿市の事務が，法令等に基づき適正に執行されている。		
成果指標	指標名	会計事務における審査件数に対する不備件数率	目標値 (H23年度)	7% 以下
	指標設定根拠・背景	会計事務における審査件数に対する不備件数率が低くなることは，適正な会計事務が執行されている状態であり，法令等に基づく事務の推進につながる。(平成27年度目標値：3%以下)	現状値 (H19年度)	11%
資源投入の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－１２４：監査機能の充実

—担当課：監査委員事務局—

《概要》

鈴鹿市の予算の執行や事業が適正かつ効率的・効果的に行われているか監査を実施します。

目的		鈴鹿市の行財政が適正に運営されている。		
成果指標	指標名	監査結果に対する指摘事項の改善率※35	目標値 (H23年度)	100%
	指標設定 根拠・背景	監査結果に対する指摘事項の改善率が上がることは、適正に鈴鹿市の各事業が行われ、適正な行財政運営につながる。 (平成27年度目標値：100%)	現状値 (H19年度)	100%
資源投入の方向性		 現状を維持します		

※35「監査結果に対する指摘事項の改善率」・・・監査結果に対する指摘事項の改善率は、平成19年度に指摘した件数のうち平成21年3月31日までに提出期限がくるものの改善率です。

◇ 単位施策－１２５：適正な資産管理

—担当課：管財営繕課，会計課，各課—

《概要》

公用車等，鈴鹿市の資産の適正な管理を行います。

目的		公用車等の資産が適正で効果的に維持管理されている。		
成果指標	指標名	集中管理車両台数	目標値 (H23年度)	100台
	指標設定 根拠・背景	公用車の集中管理車両数が減少することは，全体的な維持管理費の削減となり，公用車一台当たりの稼働率が高まって，効果的な管理がなされている状態であり，適正な資産管理につながる。（平成27年度目標値：100台）		現状値 (H19年度) 117台
資源投入の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－１２６：情報資産の適正管理と共有

—担当課：市政情報課，各課—

《概要》

鈴鹿市が取り扱う情報資産について適正に管理を行います。

目的		行政の情報資産（情報と情報システム）が機密性（許可された者だけが情報を利用できること）・完全性（情報が正確であること）・可用性（許可された者が必要な時に情報を利用できること）を維持された状態になっている。		
成果指標	指標名	情報セキュリティ事故の件数	目標値 (H23年度)	0件
	指標設定 根拠・背景	情報セキュリティ事故を防ぐことは、情報資産が適正に管理され、共有し活用することにつながる。（平成27年度目標値：0件）	現状値 (H19年度)	1件
資源投入の方向性			現状を維持します	

◇ 単位施策－127：働きやすい職場環境の充実

—担当課：人事課，公平委員会事務局—

《概要》

労働安全衛生を確保するとともに，職場環境の充実を図ります。

目的		安全で働きやすい職場環境が，心身共に良好な職員の健康状態をもたらすことで，適正な事務運営に基づいた行政経営が行われている。		
成果指標	指標名	1ヶ月以上の病休者数	目標値 (H23年度)	64人 以下
	指標設定 根拠・背景	長期病休者数の減少は，職員が心身共に健康であるゆえの状態であり，働きやすい職場環境の充実につながる。(平成27年度目標値：64人以下)		現状値 (H19年度)
資源投入の方向性		 現状を維持します		

第 2 部

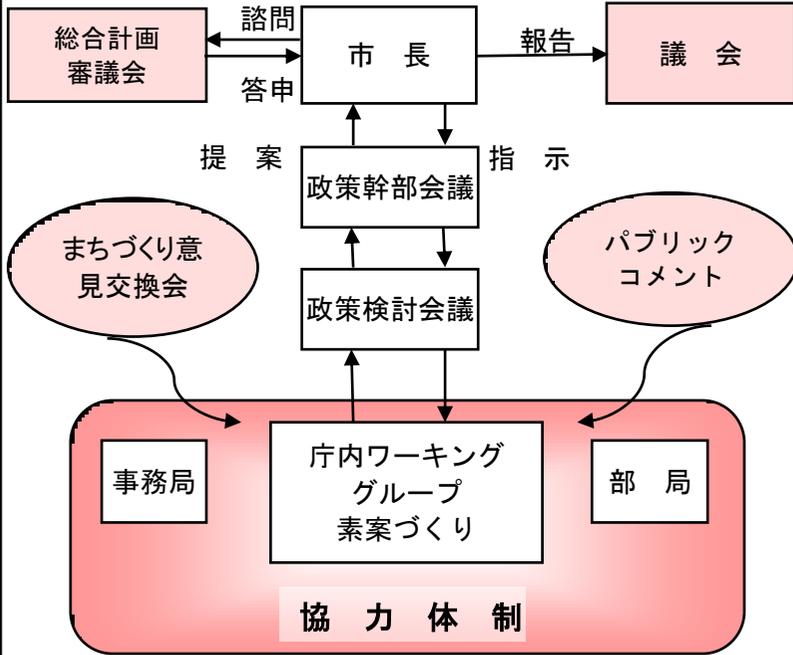
参 考 资 料

参考資料 1

●第2期行財政経営計画策定の経過

年月日	行財政経営計画策定庁内ワーキンググループ	総合計画審議会	市議会	その他
H20. 3. 25			各派代表者会議	
H20. 4. 22	メンバー決定			
H20. 4. 24	全体ミーティング			
H20. 5. 20				指標設定研修会開催(各課長, WG代表者)
H20. 4. 24 ～ H20. 9. 30	素案作成			
H20. 9. 30			全員協議会	
H20. 10. 7 ～ H20. 10. 20				まちづくり意見交換会開催(全6回)
H20. 10. 7 ～ H20. 11. 6				パブリックコメント
H20. 11. 6		第1回鈴鹿市総合計画審議会		
H20. 11. 21		第2回鈴鹿市総合計画審議会		
H21. 1. 9		第3回鈴鹿市総合計画審議会		
H21. 3. 24			全員協議会	

総合計画策定機構図



参考資料 2

● 鈴鹿市総合計画審議会委員名簿

(正副会長, 50音順, 敬称略)

役 職	名 前	団 体 名	団体役職等
会 長	妹 尾 允 史	鈴鹿国際大学	副 学 長
副会長	北 川 保	鈴鹿市自治会連合会	会 長
委 員	伊 藤 康 生	鈴鹿農業協同組合	代 表 理 事 専 務 理 事
委 員	伊 藤 洋 一	鈴鹿青年会議所	理 事 長
委 員	岩 脇 章 子	鈴鹿市芸術文化協会	演 劇 舞 踊 部 門 理 事
委 員	大 泉 源 之	鈴鹿商工会議所	会 頭
委 員	金 丸 邦 子	鈴鹿市教育委員会	委 員
委 員	熊 沢 逸 雄	鈴鹿市体育協会	会 長
委 員	黒 田 耕 一 郎	鈴鹿市漁業協同組合	代 表 理 事 組 合 長
委 員	西 東 昇	鈴鹿工業クラブ	副 会 長
委 員	坂 本 哲 夫	鈴鹿市医師会	会 長
委 員	辻 正 二	鈴鹿市商業団体連合会	会 長
委 員	土 川 禮 子	鈴鹿市男女共同参画審議会	会 長
委 員	南 条 和 治	鈴鹿市社会福祉協議会	会 長
委 員	長 谷 康 郎	鈴鹿市農業委員会	会 長
委 員	林 佳 代 子	鈴鹿市青少年育成市民会議	事 務 局 長
委 員	平 井 憲 章	鈴鹿国際交流協会	理 事 長
委 員	平 畑 武	鈴鹿地区労働者福祉協議会	会 長
委 員	松 下 隆 一	鈴鹿地区交通安全協会	会 長
委 員	結 城 治 夫	鈴鹿市老人クラブ連合会	会 長

鈴 企 第 941号

平成20年11月6日

鈴鹿市総合計画審議会

会 長 妹 尾 允 史 様

鈴鹿市長 川 岸 光 男



諮 問 書

鈴鹿市総合計画審議会条例第2条に基づき、第5次鈴鹿市総合計画行財政経営計画（平成21年度～平成23年度）について、貴会の意見を求めます。

平成21年1月13日

鈴鹿市長 川岸 光男 様

鈴鹿市総合計画審議会
会長 妹尾 允 史



鈴鹿市総合計画について（答申）

平成20年11月6日付け鈴企第941号にて諮問のありました第5次鈴鹿市総合計画行財政経営計画（平成21年度～平成23年度）について、本審議会では慎重に審議を重ねたところ、諮問された原案は概ね妥当なものとの結論に達しましたので、下記の意見を付して答申します。

記

1 総括について

我が国の経済環境は、平成20年9月以降の金融危機、それに伴う实体经济の弱体化が進んで景気後退局面に入っており、今後は下降局面が長期化・深刻化するおそれがある。

このような現下の経済情勢を十分鑑みながらも、市民一人ひとりが夢や生きがいを持って安心して暮らせるまちをめざして、次の施策を積極的に推進されたい。

2 政策の柱「人と文化を育むまちづくり」について

- ① 少子化社会を迎え、子育て支援を一層推進されたい。
- ② 義務教育として基礎・基本的な学びを保障する教育施策を更に推進されたい。
- ③ 生涯スポーツや生涯学習を更に推進し、豊かな心・健やかな身体を育み、生きがいのあるまちづくりに取り組まれたい。
- ④ 文化・スポーツ施設などの整備・運営にあたっては、施設利用者からの意見も参考にし、利用者の立場に立った配慮を講じられたい。

3 政策の柱「環境と共生するまちづくり」について

- ① 自然環境を継続的に保全していく施策及び子どもたちへの環境教育施策を引き続き講じられたい。
- ② ごみの不法投棄対策を一層強化されたい。
- ③ 海や河川等の水質保全に向けた施策を一層推進されたい。
- ④ 緑化施策の推進のため、地元産品（花木など）の活用を図られたい。

- 4 政策の柱「誰もが暮らしやすいまちづくり」について
 - ① 高齢者や障がい者などに必要な福祉施策を充実させるとともに、地域住民が互いに助け合い支え合う社会の実現に努められたい。
 - ② 医療体制の充実に取り組まれたい。
 - ③ 外国人との共生社会を進めて、市民の多文化理解に努められたい。
 - ④ 男女共同参画社会の実現を一層推進されたい。

- 5 政策の柱「いきいきとした地域と活力を生み出すまちづくり」について
 - ① 地域の経済力を高めるため、産業の活性化やそれを支える基盤整備の強化に努められたい。
 - ② 農林水産商工業の振興のため、地元製品の加工業の育成に努められたい。
 - ③ 景観に配慮し、緑豊かな街を維持しながら、活力のある観光振興施策を推進されたい。

- 6 政策の柱「安全で安心できるまちづくり」について
 - ① 安全で安心できる市民生活を確保するため、大規模自然災害（地震等）、ならびに大規模感染症等の対策を一層推進されたい。
 - ② 防犯対策の推進のため、警察機関等との一層の連携・協力を図られたい。
 - ③ 鈴鹿市青少年対策推進本部を中核に、地域・警察・行政が連携し、子どもたちの安全・安心ネットワークの取り組みを一層推進されたい。
 - ④ 交通安全意識の高揚のため、安全教育を充実させるとともに、施設整備等を推進されたい。

- 7 「構想の推進のために」について
 - ① 市民参加と協働を進めるため、市民の責務や行政の責務を明確にした「市民参加のルールづくり」に取り組まれたい。
 - ② 行政改革の推進など、効果的で効率的な行政運営を更に推進されたい。
 - ③ 成果に関する数値目標を明確にし、事業実施後に検証や評価を行って、それを次の計画や事業に生かすという継続的改善の取り組みを一層充実されたい。
 - ④ 複数の部局にわたる横断的な課題（例えば、男女共同参画の視点、人権尊重の視点等）の取り組みにあたっては、連携を密にして全市的に取り組まれたい。
 - ⑤ 本計画の推進にあたり、情報を広く市民に公表し、共有されたい。

- 8 行財政経営計画案の文言や字句等の表現については、本審議会での意見を参考にされたい。

参考資料5

●行財政経営計画策定庁内ワーキンググループ名簿

部会	役割	名前	所属
第1部会		仲道 達也	企画財務部 財政課
	部会長	角谷 元彦	文化振興部 文化課
		岸 由貴	文化振興部 生涯学習課
		柴原 洋介	保健福祉部 子育て支援課
	副部会長	舘 隆克	教育委員会 教育総務課
		鈴木 美幸	教育委員会 学校教育課
		駒田 知子	水道局 営業課
第2部会		古賀 真由美	企画財務部 納税課
		石井 ふさ子	総務部 工事検査課
	部会長	渡邊 薫	環境部 環境政策課
		山下 剛司	環境部 開発整備課
		永田 眞澄	産業振興部 農林水産課
		中西 芳章	産業振興部 農業委員会事務局
	副部会長	坂 佳徳	都市整備部 市街地整備課
第3部会		樋口 よしゑ	企画財務部 企画課
	副部会長	宮田 直季	生活安全部 市民対話課
		松本 喜芳	文化振興部 スポーツ課
	部会長	服部 伸仁	保健福祉部 生活支援課
		加藤 保子	保健福祉部 健康づくり課
		浅野 浩	産業振興部 産業政策課
		脇 浩之	都市整備部 下水建設課
	副部会長	鈴木 英文	教育委員会 人権教育課

第4部会		山田 智洋	生活安全部 河曲地区市民センター兼河曲公民館
		中島 弘貴	生活安全部 市民課
		中尾 文	環境部 廃棄物対策課
		浅野 浩	産業振興部 産業政策課
	副部会長	中村 昭宏	産業振興部 商業観光課
	部会長	砂原 宗幸	土木部 土木総務課
		西田 雄一	土木部 道路保全課
		棚瀬 研一	都市整備部 都市計画課
		磯山 陽介	教育委員会 学校教育課
第5部会	部会長	石坂 健	生活安全部 防災安全課
		伊藤 哲哉	土木部 道路整備課
		山崎由起子	土木部 道路用地課
		田之上 勉	土木部 河川課
		塚原 智子	都市整備部 下水建設課
		北川 良彦	消防本部 消防総務課
		落合 満弘	消防本部 消防課
	副部会長	望月 広志	水道局 水道総務課
		坂本 一彦	水道局 工務課
第6部会		富田 佳宏	企画財務部 企画課
	副部会長	實義 幹夫	企画財務部 市民税課
	部会長	坂 良直	総務部 総務課
		赤塚 直樹	総務部 契約調達課
		宮崎由美子	生活安全部 地域課
		山田 圭吾	生活安全部 天名地区市民センター兼天名公民館
		藤田 秀恭	保健福祉部 子育て支援課
		瀧本 泰裕	都市整備部 都市計画課
		村田 暢彦	消防本部 消防総務課